

一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center

年報

第3号

2015.4～2016.3



一般財団法人 黎明郷 理念

質の高い医療・リハビリテーションを実践し、
地域社会の保健医療福祉に貢献します。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 基本方針

- ◆地域に開かれた病院として脳卒中医療に貢献します。
- ◆活発な地域連携（病病連携・病診連携）を展開します。
- ◆最新かつ最適な医療とリハビリテーションを提供します。
- ◆チーム医療により自立への支援に努めます。
- ◆安全に配慮し、快適な入院環境作りを目指します。
- ◆最新の脳卒中医療情報を発信します。

目 次

巻頭言	院 長 保 嶋 実	1
施設概要・沿革		2
機構図		3
役員名簿（理事・監事）		4
評議員名簿		5
職員数		6
診療実績（入院患者数等、検査件数）		7
脳ドック・訪問リハビリ実績		9
研修認定施設		10
専門医数		11
治験実績		12
実習受入状況		13
財団事業		14
青森県高次脳機能障害支援拠点機関		14
青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター		15
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会		17
脳卒中市民公開講座		18
黎明郷リハビリテーションケア勉強会		19
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設10周年記念式典・講演会		20
学術報告		21
学会発表		21
依頼講演		25
論文		29
委員会報告		31
医療安全委員会		31
院内感染防止対策委員会		34
栄養管理委員会		37
褥瘡対策委員会		39
臨床検査適正化検討委員会		41
薬事審議委員会		43
電子保存システム管理委員会		46
DPCコーディング委員会		48
倫理委員会		49
衛生委員会		51
部署代表者委員会		53
教育研修委員会		55
施設運用委員会		57
広報委員会		59
患者サービス委員会		61
N S T		63
I C T		65
脳ドックワーキンググループ		68
口腔ケアワーキンググループ		69
編集後記	広報委員長（副院長） 岩田 学	70

巻 頭 言

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 院 長 保 嶋 実

平成27年6月に弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第1号（平成23年度—平成25年度）が発刊されております。平成28年1月の年報第2号（平成26年度）に続き、予定より若干遅れましたが、年報第3号（平成27年度）が発刊の運びとなりました。

平成27年度は弘前脳卒中センターとしての開設平成27年9月6日から、10年の節目の年で、平成27年9月6日に開設10周年記念式典・講演会が盛会裏に挙行されました。地域住民の皆様を始め、自治体、医師会、弘前大学などの関係者の皆様から寄せられた信頼と期待を確かものとするため、脳卒中専門医療機関として一層の機能向上を図ることを改めて決意する機会ともなりました。記念講演会では、当院からの診療実績と今後の血管内治療の取り組みなどの報告とともに、弘前大学の奥村謙教授と東北大学の伊藤貞嘉教授から、開設10周年を飾るに相応しい、格調の高い御講演をいただき、深く感銘を受けた次第であります。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターとしてスタートして5年目の平成27年度は、入院患者数や検査件数、脳ドック受診者数、訪問リハビリ件数などの診療実績は概ね前年通りに推移しております。脳血管内治療として取り組みを始めた頸動脈ステント留置術は、担当医師が資格取得を目指して国内留学したために前年度の実績に届いておりませんが、復職する次年度以降新たな展開が期待されております。脳卒中専門医4名含めて脳卒中関連領域の専門医は15名であり、脳卒中専門病院としての機能強化を目途に、さらに人材の育成が着実に進められております。また、リハビリテーション医療振興を目的として青森県から委託された2事業の展開、市民公開講座や黎明郷リハビリテーションケア勉強会開催などの社会活動も継続されております。さらに脳卒中学領域の専門誌への論文掲載（欧文誌3編を含む）など、国内外への情報発信も前年と同様に展開されております。

年報に記載されている事項特に数値は現在のセンターの診療や情報発信の現況を示す指標であり、問題点の分析と改善に向けての貴重な資料となるものがあります。今後に向けて、十分に吟味し、活用されることを願っております。

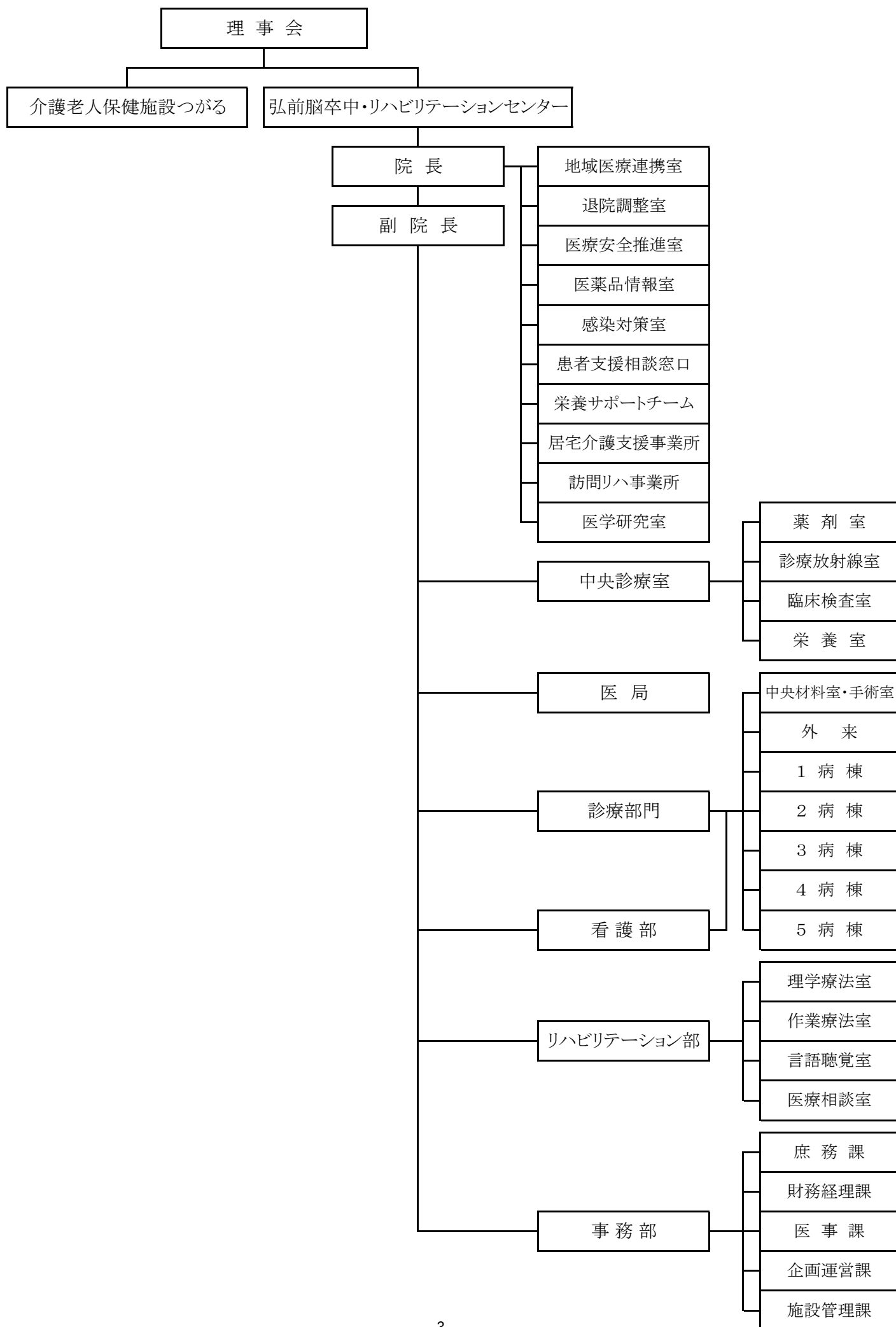
年報の作成を担当した広報委員会の岩田 学委員長はじめ、各委員諸氏の労に敬意を表したいと存じます。

施設概要

年 月	内 容
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 地面積 19,872.80 m² 建築延面積 11,414.94 m² 一般病床 35 床 回復期リハビリテーション病棟 110 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科
平成23年 4月	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設（名称変更）（248 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 敷地面積 25,828.95 m² 建築延面積 18,579.55 m² 一般病床 79 床 回復期リハビリテーション病棟 169 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、歯科
平成25年 4月	診療科目変更 脳・血管内科、循環器内科、内科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、放射線科、歯科

沿 革

年 月	内 容
昭和41年 4月	青森県知事より財団法人黎明郷の設立認可
昭和41年 7月	碓ヶ関村より診療所の委託を受け診療を開始（10 床）
昭和42年 4月	黎明郷リハビリテーション病院開設（60 床、昭和 57 年 7 月 248 床）
昭和60年 9月	黎明郷リハビリテーション病院に高血圧センター併設
平成15年 4月	黎明郷リハビリテーション病院に介護老人保健施設つがるを併設
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床）内科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・整形外科
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院（103 床）となる
平成23年 4月	弘前脳卒中センターと黎明郷リハビリテーションを統合し、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターを開設（248 床） 開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院は廃止 碓ヶ関診療所（無床）を開設
平成24年 3月	碓ヶ関診療所廃止
平成25年 4月	一般財団法人へ移行



役員名簿

平成27年4月1日現在

氏 名	職業又は勤務先	区 分
保嶋 実 (理事)	一般財団法人 黎明郷	理事長
長尾 忠行 (理事)	老健つがる設置地域代表	平川市長(行政)
山田 年伸 (理事)	青森県町村会代表	大鰯町長(行政)
奥村 謙 (理事)	弘前大学大学院医学研究科	循環器腎臓内科学講座 教授(医療)
長内 智宏 (理事)	弘前大学大学院保健学研究科	健康増進科学分野 教授(医療)
玉田 友一 (理事)	玉田内科医院 院長(秀峰会代表)	(医療)
建部 礼仁 (理事)	(株)青森銀行常務取締役	(経営)
三浦 康久 (理事)	元青森県健康福祉部長	(行政)
佐藤 陽子 (理事)	元青森県環境生活部長	(行政)
小林 正志 (理事)	一般財団法人 黎明郷	事務局長
小野寺 昭生 (監事)	(株)青森銀行システム部長	
鳴海 溜喜子 (監事)	税理士	

評議員名簿

平成27年4月1日現在

氏 名	職業又は勤務先	区 分
吉岡 利忠	弘前学院大学 学長	教育
込山 稔	特別養護老人ホーム 弘前大清水ホーム 施設長	福祉
梅村 芳文	梅村医院 院長	医療（弘前市医師会）
畑山 亨	畑山医院 院長	地域医療
葛西 聡	あすなろ法律事務所 弁護士	学識経験者（法律）
奈良岡 勇造	城東地区	地域代表（福祉）
久保田 安喜男	豊田地区町会連合会 会長	地域代表
横山 篤	介護老人保健施設つがる 施設長	医療（介護）
松本 茂男	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（リハビリ）
鎌田 孝篤	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（内科）
岩田 学	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（治験・リハビリ）
三國谷 恵美子	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護部長	看護

職員数

※過去3か年分について掲載

職 種	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
医 師	16	15	14
薬剤師	7	7	8
診療放射線技師	7	6	6
臨床検査技師	6	7	7
理学療法士	56	54	56
作業療法士	60	58	59
言語聴覚士	10	10	9
医療相談員	7	8	10
医療部助手	1	1	1
管理栄養士	3	2	4
看護師	149	159	169
准看護師	24	19	17
看護助手	27	33	32
歯科衛生士	1	1	1
介護支援専門員	1	1	2
事務員	31	32	35
合 計	406	413	430

各年4月1日現在

診療実績 入院患者数

※過去3か年分について掲載

		H25年度	H26年度	H27年度
延患者数（人）		76, 125	79, 166	80, 537
病床数		248	248	248
病床稼働率（％）		84. 0	87. 4	88. 7
平均在院日数（日）	一般病棟	14. 1	17. 1	17. 7
	回復期病棟	61. 1	68. 9	77. 8
新患受入件数（件）	a．救急車	649	639	648
		(32. 5%)	(31. 5%)	(30. 6%)
	b. 直接来院	1, 345	1, 387	1, 469
		(67. 5%)	(68. 5%)	(69. 4%)
※ c．救急車受入のうち入院（件）		564	533	536
(c / a)		(86. 9%)	(83. 4%)	(82. 7%)
一般病棟指標				
在宅復帰率		—	80. 4%	79. 3%
医療・看護必要度 重症者割合		28. 3%	20. 7%	18. 6%
回復期リハビリテーション病棟指標				
在宅復帰率		78. 8%	80. 4%	82. 8%
新規入棟患者重症者割合〔A項目〕		28. 9%	15. 5%	17. 7%
新規入棟患者重症者割合〔B項目〕		46. 9%	46. 0%	46. 9%
重症患者回復割合（退棟時）		65. 8%	59. 6%	53. 9%
回復期病棟延患者数（人）		53, 789	55, 720	56, 370
実施リハ単位数		367, 158	371, 260	359, 722
一日一人当たりリハ提供単位数		6. 83	6. 66	6. 38
脳卒中地域連携パス適用患者数（H25年9月～）		7	21	11

診療実績 検査件数

※過去3か年分について掲載

		H25年度	H26年度	H27年度
MR I		4,261	4,584	4,392
C T		3,449	3,841	4,048
超音波	頰動脈	1,226	1,347	1,321
	心臓	1,083	867	911
	経食道心臓	477	466	446
	その他	131	49	19
	合計	2,917	2,729	2,697
A B I（脈波）		858	979	899
ホルター心電図		936	964	949
血管造影	脳血管造影	16	28	3
	頭頸部血管造影	12	16	12
	心臓カテーテル検査	7	10	4
	下肢血管造影	—	—	1
	C Vカテ修正	1	—	—
	C Vカテ挿入、交換	5	3	1
	ペースメーカー移植・交換術	1	4	2
	頰動脈ステント留置術	—	10	2
	下大静脈フィルタ留置術	—	1	—
	合計	42	72	25
透視下検査	嚥下造影	71	62	53
	C Vカテ修正	2	1	—
	C Vカテ挿入、交換	12	8	2
	経鼻胃管チューブ挿入	8	17	5
	上部消化管造影	1	1	—
	透視のみ	1	3	1
	合計	95	92	61
内視鏡	内視鏡下胃瘻造設術	78	14	—
	胃瘻交換	128	78	35
	胃・十二指腸ファイバースコピー	18	10	7
	食道ファイバースコピー	—	—	1
	直腸ファイバースコピー	1	—	—
	合計	225	102	44
気管切開術		4	1	0

脳ドック実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	—	—	—	—	—	—	1	2	0	0	3	1	7
26年度	1	6	14	18	12	14	12	12	12	10	6	7	124
27年度	7	2	16	17	8	15	16	13	13	6	7	5	125

※平成 25 年 10 月より施行

訪問リハビリ実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	110	133	136	169	145	151	180	194	185	168	185	190	1946
26年度	182	180	154	158	136	166	194	179	185	153	149	152	1988
27年度	171	177	220	241	202	183	203	180	186	178	193	205	2339

※過去 3 か年分について掲載

研修認定施設

	認 定 学 会	認 定 期 間
1	日本脳卒中学会認定教育病院	2013. 4. 1～2014. 12. 31 2015. 1. 1～2016. 12. 31
2	日本リハビリテーション医学会認定研修施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31
3	日本静脈経腸栄養学会N S T稼働認定施設	2014. 4. 1～2019. 3. 31
4	日本高血圧学会専門医認定施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31
5	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	2013. 4. 1～2015. 3. 31 2015. 4. 1～2017. 3. 31

専門医数

単位：人

資 格	計
日本高血圧学会認定専門医	1
日本循環器学会認定循環器専門医	4
日本腎臓学会腎臓専門医	1
日本内科学会総合内科専門医	3
日本臨床検査医学会臨床検査専門医	1
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	4
日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医	1
日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医	2
合 計	15

平成28年3月31日現在

治験実績

年度	内 容
平成 27 年度 2 件	虚血性脳血管障害患者を対象とした CS-747S（プラスグレル塩酸塩）の既存治療対照第Ⅲ相二重盲検比較試験
	脳卒中後の上肢麻痺患者を対象とした HC-58 の第Ⅱ相臨床試験-プラセボを対照とした無作為化二重盲検比較試験

実習受入状況

※過去3か年分について掲載

		H25年度		H26年度		H27年度	
		延件数 (件)	延人数 (人)	延件数 (件)	延人数 (人)	延件数 (件)	延人数 (人)
医局		3	94	3	98	4	132
看護部		18	1,015	20	941	14	1,073
リハビリテーション部	P T	22	581	20	507	17	663
	O T	11	450	12	373	11	347
	S T	6	230	8	322	5	260
	小計	39	1,261	40	1,202	33	1,270
栄養室		1	12	1	6	0	0
合計		61	2,382	64	2,247	51	2,475

財団事業(青森県委託事業)
 青森県高次脳機能障害支援拠点機関
 平成27年度事業活動報告

1. 青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会

開催日時：平成27年9月5日(土) 14:00～16:30

開催場所：アピオあおもり 2階

参加者：121名

講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 松本 茂男 先生

『高次脳機能障害の評価と治療』

講師：藤田保健衛生大学医学部

リハビリテーション医学Ⅱ講座

教授 前島 伸一郎 先生

※拠点機関支援コーディネーターによる医療福祉相談を同時開催

2. 青森県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業検討委員会

開催日時：平成27年7月10日(金) 17:30

開催場所：青森国際ホテル 2階 高砂の間

出席者：13名

案件

1. 平成26年度事業報告について

2. 平成27年度事業計画について

3. 相談件数

相談件数	相談者		
	本人	家族	その他
	8	23	45
就労支援	2	1	1
診断・治療	5	12	40
支援体制・家族会	0	5	4
その他	1	5	0

財団事業(青森県委託事業)
青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター
平成27年度事業活動報告

1. 広域支援センターに対する支援

平成27年度リハビリテーション支援センター、広域支援センター合同研修会

◆研修会テーマ：『嚥下障害と口腔ケアへのアプローチの実際』

◆研修会内容

◇講義

・講義1 『摂食・嚥下障害を理解するために』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター副院長 松本 茂男 先生

・講義2 『口腔内のトラブルと口腔ケア』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

歯科衛生士 小堀 文美子 先生

◇ワークショップ

講師 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター言語聴覚士

1) 増粘剤の使用実習と嚥下食試食

2) 評価、口腔ケア実習

3) 事例検討

4) 検討結果まとめ

◆第1回研修会の開催

青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、八戸圏域広域支援センター合同研修会

開催日時：平成27年7月25日（土）9：30～12：00

開催場所：青森労災病院 2階 大会議室（八戸市）

参加人数：27名

◆第2回研修会の開催

青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、上十三圏域広域支援センター合同研修会

開催日時：平成27年10月25日（日）9：30～12：00

開催場所：公済会館（むつ市）

参加人数：37名

2. 地域における関係団体及び関係医療機関との連携のための連絡調整

(1) 平成27年度第1回青森県、支援センター、広域支援センター間連絡会議

開催日時：平成27年12月4日（金） 14：30～16：00

場 所：ウェディングプラザアラスカ（青森市）

内 容：・平成27年度青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、各圏域広域支援センター事業実施状況報告
・地域リハビリテーション支援体制整備推進事業の見直しについて

(2) 平成27年度第2回青森県、支援センター、広域支援センター間連絡会議

開催日時：平成28年3月23日（水） 15：00～17：00

場 所：ウェディングプラザアラスカ（青森市）

内 容：・平成27年度青森県高齢者等地域リハビリテーション支援センター、各圏域広域支援センター事業実施報告
・地域リハビリテーション支援体制整備推進事業の今後の取組について

3. オブザーバー出席

平成27年度青森県リハビリテーション協議会

日 時：平成28年2月26日（金） 14：00～15：30

場 所：ウェディングプラザアラスカ（青森市）

出 席 者：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 事務局長 小林 正志

財団事業(事務局)
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会
平成27年度事業活動報告

青森県成人・老人リハビリテーション施設協会研修会

開催日時：平成27年10月23日(金) 18:00～19:00

開催場所：青森県観光物産館アスパム 4階 十和田

参加者：病院、老健、特養等職員100名

講演1

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 岩田 学 先生

『嚥下障害と食物の調整』

講師：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

言語聴覚室副室長（言語聴覚士） 盛 亨子 先生

講演2

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 岩田 学 先生

『認知症高齢者に起こりやすい、食べることの問題』

講師：地方独立行政法人 秋田県立病院機構

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

リハビリテーション科 診療部長 細川 賀乃子 先生

財団事業(主催)
脳卒中市民公開講座
平成27年度事業活動報告

「脳卒中市民公開講座2015」

開催日時：平成27年9月27日（日）14：00～16：00

開催場所：弘前市民文化交流館 大ホール（ヒロロ4F）

参加者：100名

テーマ『ためになる！「あたらない」ためのお話し』

1. 講演

講演1

『脳卒中を知ることが予防の第一歩』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
内科副部長 萩井 譲士 先生

講演2

『みんなが気になる塩分の話』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
内科副部長 佐々木 都子 先生

講演3

『脳ドック・その後』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
脳神経外科部長 内沢 隆充 先生

2. パネルディスカッション

3. その他

- ・病院スタッフによる相談コーナーの設置
- ・脳卒中疑似体験、ABI検査コーナーの設置

財団事業(主催)

黎明郷リハビリテーションケア勉強会

平成27年度事業活動報告

1. 第5回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テーマ：『体操で健康体づくり！！～生き生き元気に過ごすための毎日習慣～』

開催日時：平成27年7月3日（金） 18：00～19：00

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参加者：病院、老健、特養等職員 24名

内容：転倒予防体操、脳卒中体操、嚥下体操の紹介・指導及び実技演習

指導担当：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
リハビリテーションスタッフ

2. 第6回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テーマ：『麻痺疑似体験を通してケアを見直そう！』

開催日時：平成27年11月27日（金） 18：00～19：00

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参加者：病院、老健、特養等職員 25名

（1）講義『脳卒中と麻痺、高齢者の特徴について』

講師：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
回復期リハビリテーション看護認定看護師

（2）体験演習

グループに分かれて、片麻痺や視覚障害状態での歩行体験や寝たきりの疑似体験を実施

財団事業(主催)

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設10周年記念式典・講演会

開催日時：平成27年9月6日（日） 14：00～16：30

開催場所：ホテルナクアシティ弘前

出席者：76名

1. 記念式典 14：00～14：30

開式の辞 一般財団法人黎明郷 事務局長 小林 正志

式 辞 一般財団法人黎明郷 理事長 保嶋 実

来賓祝辞

1) 青森県知事 三村 申吾 様

2) 衆議院議員 木村 太郎 様

3) 弘前大学長 佐藤 敬 様

4) 青森県医師会長 齊藤 勝 様

閉式の辞 一般財団法人黎明郷 事務局長 小林 正志

2. 講演会 14：30～16：30

(1) 実績報告

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 岩田 学 先生

報告一.『開院から10年間の歩み』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

内科副部長 目時 典文 先生

報告二.『急性期脳梗塞再開通治療－内科的治療のその先へー』

兵庫医科大学病院脳神経外科

助教 齋藤 新 先生

(2) 記念講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

院長 保嶋 実 先生

講演一.『脳卒中の診療を通して学んだこと・伝えたいこと』

講師：弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座

教授 奥村 謙 先生

講演二.『レニン・アンジオテンシン系』

講師：東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座

腎・高血圧・内分泌学分野

教授 伊藤 貞嘉 先生

学術報告－全国学会

年 月 日		学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 27 年 4 月 24 日 ～4 月 26 日	第 79 回日本循環器学会 学術集会	Impact of rivaroxaban treatment on coagulation -fibrinolysis cascade in cardioembolic stroke patients with secondary prevention	萩井 譲士
2	平成 27 年 5 月 28 日 ～5 月 30 日	第 52 回日本リハビリテーシ ョン医学会学術集会	傍正中橋動脈領域 Branch Atheromatous Disease (BAD) における進行性脳梗塞の頻度と長期 予後	岩田 学
3	平成 27 年 6 月 5 日 ～6 月 7 日	第 50 回日本理学療法学 術大会	脳卒中患者の歩行における時間的左 右対称性と歩容との関係について	奈川 英美
4	平成 27 年 6 月 12 日 ～6 月 13 日	第 2 回日本心血管脳卒中 学会学術集会	頸動脈狭窄を有する脳梗塞患者にお ける、冠動脈狭窄の頻度と臨床的特 徴	白戸 弘志
5	平成 27 年 6 月 12 日 ～6 月 13 日	第 2 回日本心血管脳卒中 学会学術集会	Rivaroxaban 服用後の血中濃度、プロ トロンビン時間、凝固分子マーカーの 推移の検討	萩井 譲士
6	平成 27 年 6 月 19 日 ～6 月 21 日	第 49 回日本作業療法学 会	回復期脳卒中患者における運動機能 の障害と主観的回復感の関係	今井 寛人
7	平成 27 年 6 月 19 日 ～6 月 21 日	第 49 回日本作業療法学 会	軍手装着動作の向上を目標にしたボ ツリヌス療法における作業療法士の役 割	金谷 圭子
8	平成 27 年 10 月 1 日 ～10 月 3 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 神戸 2015	回復期脳卒中患者の退院時期による 身体機能・ADL の違いについて	佐々木 奈都 美
9	平成 27 年 10 月 1 日 ～10 月 3 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 神戸 2015	当回復期病棟の ADL 介入方法にお ける現状と課題～アンケート調査を通 じて～	荒谷 光太郎
10	平成 27 年 10 月 1 日 ～10 月 3 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 神戸 2015	当院の転倒・転落予防策に対する取り 組み～症例検討会を通して～	小田桐 夕貴
11	平成 27 年 10 月 1 日 ～10 月 3 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 神戸 2015	生活行為向上マネジメントを使用して 復職にむけて介入した一症例	下山 祥穂
12	平成 27 年 10 月 1 日 ～10 月 3 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 神戸 2015	当院における専従社会福祉士の現状 と今後の展望	工藤 慎
13	平成 27 年 11 月 21 日 ～11 月 23 日	第 25 回日本医療薬学会 年会	リバーロキサバンおよびアピキサバン NOAC2 剤の経口投与と簡易懸濁法 経管投与における有用性と安全性の 検討	鳥谷部 翔

14	平成 27 年 11 月 21 日 ～11 月 23 日	第 25 回日本医療薬学会 年会	脳卒中患者における DPP-4 阻害薬の 比較検討	高瀬 公子
15	平成 27 年 11 月 21 日 ～11 月 23 日	第 25 回日本医療薬学会 年会	病棟薬剤業務からみえた脳卒中発症 前糖尿病治療状況と薬学的介入の必 要性	倉内 寿孝
16	平成 27 年 11 月 28 日 ～11 月 29 日	第 12 回日本神経理学療 法学会学術集会	脳卒中患者の歩行自立決定因と自立 度の予測	齊藤 成美
17	平成 28 年 2 月 18 日 ～2 月 20 日	第 45 回日本神経放射線 学会	CT 画像解析による TIA の所見	内沢 隆充
18	平成 28 年 2 月 25 日 ～2 月 26 日	第 31 回日本静脈経腸栄 養学会学術集会	経腸栄養患者の動向～体制の変化に より行き先は変わったか～	佐々木 都子
19	平成 28 年 2 月 25 日 ～2 月 26 日	第 31 回日本静脈経腸栄 養学会学術集会	脳卒中急性期における摂食障害に対 する試み	今井 真子
20	平成 28 年 2 月 25 日 ～2 月 26 日	第 31 回日本静脈経腸栄 養学会学術集会	当院での NST 介入における現状およ び評価と今後の検討	藤田 佳子
21	平成 28 年 2 月 27 日 ～2 月 28 日	回復期リハビリテーション 病棟協会 第 25 回研究大 会 in 愛媛	疑似体験を取り入れた研修の効果～ 高齢者の視覚に焦点をあてて～	金崎 真紀子
22	平成 28 年 3 月 4 日 ～3 月 5 日	回復期リハビリテーション 病棟協会 第 27 回研究大 会 in 沖縄	自宅退院を目標に日課表を利用してト イレ誘導の拒否・失禁回数の減少を試 みた一例～認知症を有した症例に対 する本人の意思を尊重した関わり～	菊池 智彦
23	平成 28 年 3 月 4 日 ～3 月 5 日	回復期リハビリテーション 病棟協会 第 27 回研究大 会 in 沖縄	脳血管疾患患者のトイレ動作自立まで の期間と発症早期の基本動作、バラン ス、認知機能の関連性	小田桐 伶
24	平成 28 年 3 月 4 日 ～3 月 5 日	回復期リハビリテーション 病棟協会 第 27 回研究大 会 in 沖縄	回復期病棟患者に対する転倒の影響 について	今井 寛人
25	平成 28 年 3 月 4 日 ～3 月 5 日	回復期リハビリテーション 病棟協会 第 27 回研究大 会 in 沖縄	回復期リハビリテーション病棟におけ る早期介入を促す退院調整チェックリ ストを試用した結果について	須藤 圭吾
26	平成 28 年 3 月 18 日 ～3 月 20 日	第 80 回日本循環器学会 学術集会	Prothrombin time on admission in patients with cardioembolic stroke and intracerebral hemorrhage occurring during warfarin treatment in NOAC era	萩井 譲士
27	平成 28 年 3 月 18 日 ～3 月 20 日	第 80 回日本循環器学会 学術集会	Impact of plasma D-dimer levels and infarct size on functional outcome in patients with cardioembolic stroke in the anterior-circulation region	白戸 弘志

学術報告－地方学会

年 月 日		学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 27 年 9 月 26 日 ～9 月 27 日	第 26 回東北作業療法学 会	電気刺激法を併用した促通反復療 法と課題指向型訓練で、感覚障害 を呈した脳卒中片麻痺上肢の改善 を認めた一例	田中 秀一
2	平成 27 年 9 月 26 日 ～9 月 27 日	第 26 回東北作業療法学 会	残存機能の利用および機能の改 善によって箸操作獲得を目指した 作業療法	柏崎 勉
3	平成 27 年 10 月 31 日	第 3 回日本脳神経看護研 究学会東北地方部会	脳卒中後遺症と予防の重要性	目時 典文
4	平成 27 年 10 月 31 日	第 3 回日本脳神経看護研 究学会東北地方部会	PEG 造設後に経口摂取可能となっ た摂食障害者への関わり	蒔苗 敦子
5	平成 27 年 10 月 31 日	第 3 回日本脳神経看護研 究学会東北地方部会	自宅退院する回復期リハビリテー ション病棟における退院計画・指導 介入について～脳卒中患者の退 院時支援の実態調査～	齋藤 輝之
6	平成 27 年 11 月 28 日 ～11 月 29 日	第 33 回東北理学療法学 術大会	健常成人における上肢の振りと歩 行能力の関連性～脳卒中片麻痺 例をイメージして～	薛 峻杰
7	平成 27 年 11 月 28 日 ～11 月 29 日	第 33 回東北理学療法学 術大会	下肢軽度麻痺を有する脳卒中患 者の歩行観察と身体機能の關係に ついて	奈川 英美
8	平成 27 年 12 月 5 日	第 161 回日本循環器学会 東北地方会	心房粗細動のカルーテルアブレー ション中に房室回帰性頻拍が誘発 され、治療に至った頻脈誘発性心 筋症の一例	對馬 佑一

学術報告－県学会

年 月 日		学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 27 年 5 月 16 日 ～5 月 17 日	第 28 回青森県作業療法学会	誘導を拒否していたがトイレでの排泄が可能となった一例 ～回復期病棟の多職種連携による介入～	三上 奈月
2	平成 27 年 5 月 16 日 ～5 月 17 日	第 28 回青森県作業療法学会	生活行為向上マネジメントを使用して心理面の変化が得られた症例について	鎌田 舞
3	平成 27 年 6 月 20 日 ～6 月 21 日	第 39 回青森県理学療法士学会	当院における装具選択時における着眼点の傾向	福多 真奈美
4	平成 27 年 6 月 20 日 ～6 月 21 日	第 39 回青森県理学療法士学会	回復期脳卒中患者の歩行に対する満足度へ関連する因子	奈川 英美
5	平成 27 年 11 月 28 日	青森県 NST 研究会 第 8 回青森 NST 研究会	食欲亢進を目的とした脳卒中患者に対する六君子湯の有用性および安全性の検討	鳥谷部 翔
6	平成 27 年 11 月 29 日	青森県病院薬剤師会 平成 27 年度会員研究発表会並びに学術講演会	非ビタミン K 阻害経口抗凝固薬リバーロキサバンおよびアピキサバンの経口投与と簡易懸濁法経管投与における有用性と安全性の検討	鳥谷部 翔
7	平成 27 年 11 月 29 日	青森県病院薬剤師会 平成 27 年度会員研究発表会並びに学術講演会	脳卒中患者における DPP-4 阻害薬の比較検討	高瀬 公子

学術報告－依頼講演

年 月 日		学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 27 年 4 月 9 日	つがる地区心原性脳塞栓症 予防セミナー(バイエル薬 品)(五所川原市)	抗凝固療法の現状と課題 ～イグザレルト発売 3 周年を迎え て～	齋藤 新
2	平成 27 年 4 月 18 日	第 13 回青森県脳卒中フォー ラム(田辺三菱製薬)(青 森市)	NOAC の調剤法における注意点 について	鳥谷部 翔
3	平成 27 年 4 月 18 日	第 13 回青森県脳卒中フォー ラム(田辺三菱製薬)(青 森市)	動脈硬化性脳梗塞における糖尿 病の特徴	目時 典文
4	平成 27 年 4 月 22 日	大館脂質異常症治療セミナ ー(アストラゼネカ、シオノギ 製薬)(大館市)	脂質異常症の先にある動脈硬化 を考える～脳卒中医の立場から～	目時 典文
5	平成 27 年 4 月 24 日	静岡県東部 脳卒中病診連 携講演会(バイエル薬品) (沼津市)	心原性脳梗塞症の実際と予防の 重要性	目時 典文
6	平成 27 年 5 月 2 日	第 27 回弘前脳疾患臨床セ ミナー(第一三共)(弘前市)	当院における脳卒中診療	萩井 譲士
7	平成 27 年 5 月 21 日	第 37 回日本血栓止血学会 学術集会 イブニングセミナ ー2(エーザイ)(甲府市)	血栓症の先にある問題点に思いを よせて～心原性脳塞栓症の急性 期治療と予防の重要性～	目時 典文
8	平成 27 年 5 月 22 日	イグザレルト錠発売 3 周年 記念講演会(バイエル薬品) (弘前市)	弘前における脳卒中診療	萩井 譲士
9	平成 27 年 5 月 28 日	西北五地区発売 2 周年記 念講演会(ブリストル・マイヤ ーズ、ファイザー)(五所川 原市)	弘前脳卒中・リハビリテーショ ンセンターにおける NOAC の使用状 況～年齢と腎機能を配慮した薬剤 の選択～	萩井 譲士
10	平成 27 年 5 月 29 日	第 2 回弘前脳卒中・リハビリ テーションセンター学術講 演会(弘前市)	t-PA 投与に至らなかった理由と背 景	白戸 弘志
11	平成 27 年 5 月 29 日	第 2 回弘前脳卒中・リハビリ テーションセンター学術講 演会(弘前市)	脳卒中を疑う患者の特徴的な症状 と経過	目時 典文
12	平成 27 年 6 月 5 日	中通 stroke カンファレン ス(ブリストル・マイヤーズ、 ファイザー)(秋田市)	弘前脳卒中・リハビリテーショ ンセンターにおける NOAC の使用状 況 ～年齢と腎機能を配慮した薬剤の 選択～	萩井 譲士

13	平成 27 年 6 月 12 日	第 2 回日本心血管脳卒中 学会イブニングセミナー3 (田辺三菱製薬)(徳島市)	脳梗塞急性期への内科的アプ ローチ	目時 典文
14	平成 27 年 6 月 17 日	第 17 回弘前脳卒中治療カ ンファレンス(小野薬品)(弘 前市)	当院における脳卒中と糖尿病合併 について	目時 典文
15	平成 27 年 6 月 18 日	武田薬品工業株式会社・バイ タルネット社員向け合同勉 強会(武田薬品、バイタルネ ット)(弘前市)	脳卒中センターにおける薬剤の懸 濁についての現状	鳥谷部 翔
16	平成 27 年 6 月 24 日	第 9 回津軽脳卒中セミナー (田辺三菱製薬)(弘前市)	脳卒中患者における糖尿病の現 状	目時 典文
17	平成 27 年 6 月 24 日	第 9 回津軽脳卒中セミナー (田辺三菱製薬)(弘前市)	脳卒中患者に対するリスク管理に ついて	大川 麻美
18	平成 27 年 6 月 25 日	第 3 回 Embolism Confere nce(バイエル薬品)(熊本 市)	心原性脳塞栓症から患者を守る ～チーム医療と治療法の進歩～	目時 典文
19	平成 27 年 7 月 8 日	心原性脳塞栓症予防学術 講演会(バイエル薬品)(福 井市)	高齢社会の最前線～心原性脳塞 栓症から患者を守る～	目時 典文
20	平成 27 年 7 月 12 日	日本循環器学会 第 130 回 北陸地方会ランチョンセミナ ー(バイエル薬品)(鹿児島 市)	高齢社会の最前線～心原性脳塞 栓症から患者を守る～	目時 典文
21	平成 27 年 7 月 18 日	青森県作業療法士会弘前 ブロック研修会	画像診断—脳画像の診かたと神 経所見—	目時 典文
22	平成 27 年 7 月 21 日	第 4 回イグザレト医療連 携カンファレンス(バイエル 薬品)	高齢社会の最前線～弘前におけ る脳卒中診療～	目時 典文
23	平成 27 年 7 月 25 日	平成 27 年度第 1 回青森県 高齢者等地域リハビリテー ション支援センター、八戸圏 域地域リハビリテーション広 域支援センター合同研修会 (八戸市)	嚥下障害を理解するために	松本 茂男
24	平成 27 年 7 月 25 日	平成 27 年度第 1 回青森県 高齢者等地域リハビリテー ション支援センター、八戸圏 域地域リハビリテーション広 域支援センター合同研修会 (八戸市)	口腔内のトラブルと口腔ケア	小堀 文美子

25	平成 27 年 7 月 29 日	岩手脳卒中予防講演会(バイエル薬品)(盛岡市)	高齢社会の最前線～弘前における脳卒中診療～	目時 典文
26	平成 27 年 7 月 31 日	京都脳卒中医療連携懇話会(ファイザー)(京都市)	効果的な多職種マンパワーの活用による急性期脳卒中診療の実際	目時 典文
27	平成 27 年 9 月 1 日	津軽糖尿病セミナー(日本ベーリンガーインゲルハイム)(弘前市)	脳梗塞発症時の糖尿病合併症状況から考えること	目時 典文
28	平成 27 年 9 月 6 日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設十周年記念講演(弘前市)	実績報告 開院から 10 年間の歩み	目時 典文
29	平成 27 年 9 月 6 日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設十周年記念講演(弘前市)	実績報告 急性期脳梗塞再開通治療～内科的治療のその先へ～	斎藤 新
30	平成 27 年 9 月 6 日	平成 27 年度 生涯教育制度現職者選択研修会(青森県作業療法士会)(五戸町)	脳血管障害	算用子 暁美
31	平成 27 年 9 月 15 日	弘前市胃腸科内科懇話会(田辺三菱製薬)(弘前市)	脳卒中発症予防と後遺症について～糖尿病管理を含めて～	目時 典文
32	平成 27 年 9 月 16 日	平成 27 年度出張家庭介護講座(青森県社会福祉協議会)(六戸町)	食事介助について	池上 友紀子
33	平成 27 年 9 月 25 日	弘前脳血管障害セミナー EPA(持田製薬)(弘前市)	パネルディスカッション 弘前地区における脳卒中と EPA/AA の比較の実際	目時 典文
34	平成 27 年 9 月 26 日	第 27 回青森県滅菌・消毒研究会(大日本住友製薬)(青森市)	特定抗菌薬使用届出制導入前後の使用動向の変化と適正使用に向けた感染対策室による抗菌薬ラウンドの取り組みについて	倉内 寿孝
35	平成 27 年 9 月 27 日	脳卒中市民公開講座 2015 ためになる「あたらない」ためのお話し(弘前市)	脳卒中を疑う患者の特徴的な症状と経過知ることは予防の第一歩	目時 典文
36	平成 27 年 9 月 27 日	脳卒中市民公開講座 2015 ためになる「あたらない」ためのお話し(弘前市)	みんなが気になる塩分の話	佐々木 都子
37	平成 27 年 9 月 27 日	脳卒中市民公開講座 2015 ためになる「あたらない」ためのお話し(弘前市)	脳ドック・その後	内沢 隆充

38	平成 27 年 10 月 1 日	函館脳卒中カンファレンス (バイエル薬品)(函館市)	心原性脳塞栓症から患者を守る	目時 典文
39	平成 27 年 10 月 4 日	平成 27 年度現職者選択研修(弘前市)	地域生活の支援 生活行為向上 マネジメント	金谷 圭子
40	平成 27 年 10 月 23 日	平成 27 年度青森県成人・ 老人リハビリテーション施設 協会 総会・研修会(青森 市)	嚥下障害と食物の調整	盛 亨子
41	平成 27 年 10 月 25 日	平成 27 年度第 2 回青森県 高齢者等地域リハビリテー ション支援センター、下北圏 地域リハビリテーション広 域支援センター合同研修会 (むつ市)	嚥下障害を理解するために	松本 茂男
42	平成 27 年 10 月 25 日	平成 27 年度第 2 回青森県 高齢者等地域リハビリテー ション支援センター、下北圏 地域リハビリテーション広 域支援センター合同研修会 (むつ市)	口腔内のトラブルと口腔ケア	小堀 文美子
43	平成 27 年 11 月 12 日	コメディカルのためのストッ プ!NO 卒中プロジェクト in 弘前(ファイザー)(弘前市)	持参薬確認からみえる入院前服薬 状況と服薬指導への関わり	鳥谷部 翔
44	平成 27 年 11 月 12 日	コメディカルのためのストッ プ!NO 卒中プロジェクト in 弘前(ファイザー)(弘前市)	脳卒中リハビリテーションの進め方 ー脳卒中治療ガイドライン 2015 を ふまえてー	岩田 学
45	平成 28 年 2 月 19 日	福島脳心連携カンファラン ス(バイエル薬品)(福島市)	心原性脳塞栓症から患者を守る	目時 典文

学術報告－論文等

年 月 日		雑誌名	論文題目	著者名 (共著含む)
1	平成 27 年 4 月 1 日	medicina 第 52 巻 第 4 号 増刊号(P.369-371)	増刊号 これだけは知っておきたい検査のポイント 第 9 集 内分泌学的検査 副腎・腎 アルドステロン	保嶋 実
2	平成 27 年 4 月 1 日	medicina 第 52 巻 第 4 号 増刊号(P.372-373)	増刊号 これだけは知っておきたい検査のポイント 第 9 集 内分泌学的検査 副腎・腎 レニン	保嶋 実
3	平成 27 年 4 月 10 日	腎臓リハビリテーション 第 1 版第 3 刷(補訂)(P.72-75)	第 2 章腎臓病をめぐる基礎知識 Ⅲ－腎臓機能障害の検査 1 尿検査	分担執筆 保嶋 実
4	平成 27 年 6 月	Journal of Stroke Cerebrovascular Diseases 2015 Vol.24 No.6(P.1430-1437)	Severity and functional outcome of patients with cardioembolic stroke occurring during non-vitamin K antagonist oral anticoagulant treatment	富田 泰史 萩井 護士
5	平成 27 年 7 月 31 日	東北理学療法学 2015 第 27 号(P.75-81)	脳卒中患者の歩行所要時間に影響を及ぼす歩容の観察項目について	奈川 英美
6	平成 27 年 8 月 7 日	週刊朝日 2015 8 月 7 日増大号 特別広告企画 回復期リハビリテーションの実力医療機関(P.6)	青森県の脳卒中医療を担う病院として急性期治療から回復期リハビリまで一貫して実践	保嶋 実 岩田 学
7	平成 27 年 9 月 1 日	BRAIN NURSING 2015 Vol.31 No.9(P.1)	イケ Men ナース奮闘記	齋藤 輝之
8	平成 27 年 9 月 25 日	リハビリナース 2015 秋季増刊(P.96-101)	病態失認・身体失認のある患者への看護	齋藤 輝之 工藤 晃
9	平成 27 年 10 月 5 日	Neuropsychiatric Disease and Treatment 2015 Vol.11(P.2551-2556)	Effect of depressive symptoms on the length of hospital stay among patients hospitalized for acute stroke in Japan	菅原 典夫 目時 典文
10	平成 27 年 10 月 20 日	理学療法科学 第 30 巻 第 5 号(P.719-724)	脳卒中患者の運動負荷時の循環動態変動の特徴～併存疾患の重複に着目して～	藤田 俊文 岩田 学

11	平成 27 年 10 月 31 日	BIO Clinica 2015 Vol.30 No.12 臨時増刊 号(P.106-111)	全身振動刺激が筋機能・循環動態へ与 える影響の解明	藤田 俊文 岩田 学
12	平成 27 年 11 月	Journal of Stroke Cere brovascular Diseases 2015 Vol.24 No.11 (P.2613-2618)	Impact of sex difference on severity a nd functional outcome in patients with cardioembolic stroke	富田 泰史 萩井 譲士
13	平成 28 年 2 月 15 日	回復期リハビリテーション 2015 Vol.14 No.4(P. 47)	スタッフはいま テーマ「患者さんとのコミュニケーション」 歯科衛生士:反応を待ち繰り返し何度も 説明	小堀 文美子
14	平成 28 年 3 月 10 日	Pharma Media 2016 Vol.34 No.3 (P.105-111)	NOACs処方脳卒中患者における嚥下 障害の頻度と簡易懸濁法の有用性	鳥谷部 翔
15	平成 28 年 3 月 28 日	青森県作業療法研究 2015 Vol.24 No.1 (P.27-29)	誘導を拒否していたがトイレでの排泄が 可能となった一例～回復期病棟の多職 種連携による介入～	三上 奈月

委員会報告

医療安全管理委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療安全管理体制を確立し、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を実践し、患者様へ安全な医療を提供することを目的とする。

2. 構成員 ※平成 28 年 3 月末現在

委員長 保嶋 実（院長）

副委員長 三國谷 恵美子（看護部長）

藤田 尚子（医薬品情報室副室長）※

メンバー 鎌田 孝篤（副院長・医療安全推進室室長）※

岩田 学（副院長）

白戸 弘志（内科医長）※

成田 京子（看護師長）

山田 まり子（看護師長）

工藤 留美子（看護師長）

金崎 真紀子（看護師長）

小笠原 美幸（看護師長）

小田桐 千代（看護師長）

三浦 順子（リハビリテーション部技師長）

須藤 真史（理学療法室長）

算用子 暁美（作業療法室長）

松山 哲子（言語聴覚室長）

土岐 敏子（医療相談室長）

鳥谷部 翔（薬剤師長）

川村 隆行（診療放射線技師長）

阿保 文子（臨床検査技師長）

鳴海 悦子（管理栄養士長）

小林 正志（事務局長）

工藤 雅令（事務部長）

奈良 富士子（庶務課長）

工藤 博人（企画運営課長）

蒔苗 寿治（施設管理課長）

今 基（医事課長補佐）

中田 智子（看護師長・感染対策室副室長）

横山 純子（看護師長・医療安全推進室副室長）※◆

吉田 美奈（看護主任）※

福井 楽（庶務係長）※

※医療安全推進室（兼務）

◆専従医療安全管理者

3. 委員会等開催記録

・【医療安全推進室】

毎週金曜日 定例会（LV 判定他） 14：30～15：00

毎月第 3 木曜日 院内巡視 16：00～16：30

推進室メンバー 7 名

※平成 28 年 2 月 1 日：専従医療安全管理者変更

・【医療安全管理委員会】

毎月第 2 水曜日 事例報告・検討 15：30～16：00

各部署リスクマネージャー他 31 名

・【転倒・転落ワーキング】

毎月第1火曜日 16:00～16:30

各部署選出のメンバー 19名

業務グループ、教育グループ

・【薬剤ワーキング】

毎月第1水曜日 14:00～14:30

医薬品情報室、薬剤師、事務員、各部署看護業務委員、医療安全管理者 9名

インシデント、アクシデントをもとに薬剤に関連したマニュアル検討

・【薬剤ミーティング】

毎月第3火曜日 16:00～16:30

薬剤室室長、薬剤師長、医薬品情報室、看護部長、看護師長、看護主任

薬剤情報、取扱い運用、医療事故対策、医師との情報共有

院内巡視

開催日	場所	内容
平成27年4月16日	1病棟	病棟内環境整備 ルール厳守
平成27年5月22日	2病棟	機器管理 確認の習慣化
平成27年6月18日	3病棟	病棟内環境整備
平成27年7月16日	4病棟	5Sの習慣化
平成27年8月19日	5病棟	物品管理 整理整頓の習慣化
平成27年9月17日	外来	導線を考慮した物品配置
平成27年10月15日	薬剤室	業務の見えるか
平成27年11月18日	臨床検査室	感染・安全を考慮した環境整備
平成27年12月17日	診療放射線科	整理整頓・2者間での患者確認
平成28年1月21日	栄養・厨房	清潔の保持
平成28年2月18日	リハビリ室	訓練器具の定期的な点検、整理

主な研修会

開催日	内容
平成27年4月2日	平成27年度新入職員教育研修「リスクマネジメント」
平成27年4月17日	看護部新人教育「針刺し事故・点滴開通ミスなど」
平成27年6月16～22日	第1回医療安全研修会「一次救命（基礎編）」
平成27年7月15, 17日 8月19, 21日	看護実践、患者が見える記録
平成27年10月21日	看護現任教育 リスクマネジメント「インシデント報告とは」
平成27年10月22日～ 28日	第2回医療安全研修「医療事故調査制度」
平成27年11月18日	新入職員フォローアップ研修「インシデント報告とは」「レポートの書き方」
平成27年12月17日	臨床での安全管理／看護師の立場から 医療福祉大学看護学科講義

4 年活動要約

(1) 医療安全研修会（年 2 回開催 参加率 84 年 8%）

・「一次救命処置編の研修」

今回の研修目的の一つとして AED の仕組みを理解し操作方法を正しく理解し、実際にデモ器を使用、蘇生の一つ胸骨圧迫法を体験する。その後、医療従事者として行うべき行為として一次救命処置を含めた演習を行った。全参加者が体験することとしたが、参加者は医療者であり、次のステップへの研修も望む意見も聞かれ、職種等段階に応じた研修企画を今後検討していく。

・「医療事故調査制度」

医療事故調査制度は、平成 26 年 6 月 18 日に成立し、医療法の改正に盛り込まれた制度で平成 27 年 10 月 1 日施行となった。医療事故が発生した医療機関では院内調査を行い、その調査報告を民間の第三者機関（医療事故調査・支援センター）が収集・分析することで、再発防止につながるための医療事故のかかる調査の仕組み等を医療法に位置づけ、医療の安全を確保するものである。今回、弘前大学医学部附属病院医療安全推進室室長を講師に招き、事例を交えて医療事故調査制度についての研修を実施した。一度の講義のみでは全体周知には至らないが、参加者の意見を確認すると意識づけに繋がり研修効果はあった。

(2) 薬剤関連

- ・職員が直接関わる事項でアクシデントにも繋がる。
- ・発生原因として、確認を怠る、知識不足、ルール・マニュアルの逸脱
- ・「スタッフの気づきを育てる体制」の視点が重要。実践の中で常に関心を持ち、人・物事をとらえる習慣をつけ、薬剤安全対策に繋げることを目的とし、薬剤安全対策ワーキングを発足した。実際に発生したインシデントをもとに医薬品情報室、薬剤師、看護業務委員、看護主任が中心となり安全な医療を提供することを念頭に置き、マニュアル整備を進めている。
- ・今年度は、5S+6S を視野に院内巡視実施したが、なかなか継続することの難しさもあり、感染対策室と連携しながら安全な医療提供に向け関わっていく。また、医療職を守るのも記録、患者を守るのも記録、適切な記録は最良のリスクマネジメントである。医療従事者の責任は結果ではなく過程にあり、実践した事項を記録に残し見える化を図り、「安全な医療」を提供できるよう安全管理者として人材育成していく。

院内感染防止対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療関連感染防止のために、耐性菌検出状況・抗菌薬の使用状況を把握し院内感染対策の業務が適正に遂行されているかを審議することを目的とする。

2. 構成員 ※平成 28 年 3 月末現在

委員長	保嶋 実	(院長)		
メンバー	清野 聡	(医局長)	萩井 譲士	(内科副部長)
	三國谷恵美子	(看護部長)	成田 京子	(看護師長)
	山田 まり子	(看護師長)	工藤 留美子	(看護師長)
	金崎 真紀子	(看護師長)	小笠原 美幸	(看護師長)
	三浦 順子	(リハビリテーション部技師長)	川村 隆行	(診療放射線技師長)
	阿保 文子	(臨床検査技師長)	吉澤 佳子	(主任管理栄養士)
	鳥谷部 翔	(薬剤師長)	倉内 寿孝	(主任薬剤師)
	工藤 雅令	(事務部長)	横山 純子	(看護師長・医療安全推進室副室長)
	中田 智子	(看護師長・感染対策室副室長)	毛利 暢子	(看護主任) ※

※院内感染管理者

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 5 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
2	平成 27 年 5 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
3	平成 27 年 6 月 17 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回合同カンファレンス参加 I C T 委員よりラウンド状況など報告
4	平成 27 年 7 月 15 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回合同カンファレンス結果報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告

5	平成 27 年 8 月 19 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回院内感染防止対策研修実施 第 2 回合同カンファレンス参加 弘前保健所立ち入り調査 I C T 委員よりラウンド状況など報告
6	平成 27 年 9 月 16 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回院内感染防止対策研修評価・報告 第 2 回合同カンファレンス結果報告 弘前保健所立ち入り調査結果報告 インフルエンザワクチン接種準備開始 I C T 委員よりラウンド状況など報告
7	平成 27 年 10 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 インフルエンザワクチン接種開始（職員、外部委託含む） I C T よりラウンド状況など報告
8	平成 27 年 11 月 19 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回津軽感染制御フォーラム（第 3 回合同カンファレンス）参加 I C T よりラウンド状況など報告
9	平成 27 年 12 月 16 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回津軽感染制御フォーラム（第 3 回合同カンファレンス）報告 第 2 回院内感染防止対策研修実施 I C T よりラウンド状況など報告
10	平成 28 年 1 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 2 回院内感染防止対策研修結果報告 I C T よりラウンド状況など報告
11	平成 28 年 2 月 17 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 4 回合同カンファレンス参加・結果報告 I C T よりラウンド状況など報告

12	平成 28 年 3 月 17 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T より院内巡視(ラウンド)年間の状況・結果報告
----	------------------	---

4. 活動要約

- ・ 感染情報レポートの評価・検討

院内感染報告患者と報告細菌数を可視化する方法へ変更

細菌報告後は早期に介入を行い結果も含め報告し、注意点などをフィードバックしている。

委員会で検討・注意喚起を行う事で感染防止に繋がっている。

- ・ 薬剤室より、抗菌薬・消毒剤使用状況報告

抗菌薬使用状況などから、病棟毎の特殊性を把握し感染症に関する治療や抗菌薬使用を可視化する事で、感染状況や治療に繋げる事が出来ている。

今後は、抗菌薬使用状況から適正使用であるかなども介入する指標作成を行う。

- ・ I C T よりラウンド状況報告

院内環境巡視を通し、院内の感染対策実施状況を把握が出来ている。

今後は、病院全体で改善が必要な部分について感染対策室を中心に取り組む。

- ・ 院内感染防止対策研修会（年 2 回）

流行を踏まえて必要な研修を実施。参加者の参加型実践研修を行う事で現場に活用できている。今後も現場の声を踏まえた研修を行っていく。

- ・ 構成員の変更

平成 27 年 6 月 26 日付

院内感染管理者：赤石富士子 → 毛利暢子 へ変更

平成 28 年 1 月 1 日付

横山純子 看護師長 感染対策室副室長 → 専従医療安全管理者へ変更

平成 28 年 2 月 1 日付

中田智子 看護師長 専従医療安全管理者 → 感染対策室副室長へ変更

栄養管理委員会

1. 活動目的

病院給食が合理的に運営されるために栄養管理委員会を開催し、患者の適正な栄養管理を行い、医療の質の向上を計ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	佐々木 都子（内科副部長）	
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿部 早苗（薬剤師）
	阿保 文子（臨床検査技師長）	三國谷 恵美子（看護部長）
	今井 真子（看護師）	佐藤 志乃（看護主任）
	齋藤 真貴（看護師）	横濱 岳（看護主任）
	高阪 理恵（看護師）	菊池 美里（看護師）
	原子 美喜子（看護師）	佐藤 綾（看護師）
	寺地 恵子（看護師）	佐藤 聖美（看護師）
	石岡 明美（看護師）	村上 直美（看護師）
	五十嵐 沙弥香（看護師）	小田桐 千代（看護師長）
	池上 友紀子（言語聴覚士）	佐々木 哲裕（医事係主任）
	須藤 貴子（栄養士・日清医療食品）	
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	藤田 佳子（主任管理栄養士）
	田澤 亜巳（管理栄養士）	三浦 みこと（管理栄養士）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 1 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、今年度の取り組みについて
2	平成 27 年 5 月 7 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、春の食事会、メディカルスタッフ勉強会、NST・褥瘡委員合同勉強会、外来栄養指導の本格的稼働に向けて
3	平成 27 年 6 月 3 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、春の食事会反省、お茶クーラー・ピッチャー破損について 外来栄養指導の新運用
4	平成 27 年 7 月 1 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、外来栄養指導の新運用、食中毒について
5	平成 27 年 8 月 5 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、回復期の外泊前の栄養指導について
6	平成 27 年 9 月 2 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、秋の食事会、食物繊維強化、GFO・経腸栄養剤の返却について、NST 勉強会、栄養管理計画書について

7	平成 27 年 10 月 7 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、秋の食事会反省、NST 勉強会、備蓄粥の提供、食物アレルギーについて
8	平成 27 年 11 月 4 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、クリスマス食事会、NST 勉強会、ノロウイルスマニュアル確認
9	平成 27 年 12 月 3 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、クリスマス食事会の反省、REF-P1 の取り扱いについて、食物アレルギー入力に関する運用、感染性胃腸炎が疑われる場合の対応について
10	平成 28 年 1 月 6 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、クリスマス食事会反省、節分の早配膳について、次年度の食事会予定、新電子カルテ移行時の入力について、経腸栄養剤・補助飲料の見直し、補助飲料試飲会
11	平成 28 年 2 月 3 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、JSPEN 予演会、NST 勉強会、経腸栄養剤の終売及び新規採用
12	平成 28 年 3 月 2 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、次年度の栄養管理委員会・NST メンバー、NST・褥瘡委員会合同勉強会、新電子カルテ導入後のトラブルについて

4. 活動要約

- ・食事会や行事食は例年通り実施。
- ・院内勉強会は褥瘡委員会との合同勉強会も含め、例年より多く年 5 回実施した。次年度も継続し行っていきたい。
- ・管理栄養士の増員に伴い外来栄養指導の新運用を開始したが、件数は思うように伸びなかった。次年度は体制を見直し、更に充実させていきたい。
- ・食物繊維充足のため米飯へ強化食品を付加したが、腹部症状のトラブルなく経過した。
- ・ご飯茶碗を黒い食器へ変更し概ね好評である。他の食器の劣化も目立つため、今後計画的に買い替えていきたい。
- ・食事アンケートでは満足・やや満足度が低下傾向のため、献立内容や味付けなどの見直しを図っている。今後も継続し満足度の向上に繋げていきたい。

褥瘡対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	岩田 学	(副院長)		
副委員長	栗嶋 昭子	(看護師)		
メンバー	三國谷恵美子	(看護部長)	工藤 妥恵	(看護師)
	船水 梨沙	(薬剤師)	白川 笑美子	(看護師)
	藤田 佳子	(管理栄養士)	橋本 祐樹	(看護師)
	伊藤 純子	(看護師)	宮野 麻莉	(看護師)
	小野 るり子	(看護師)	浅利 尚美	(リハ主任)
	三上 知彦	(看護師)	小野 公久	(リハ主任)
	桑村 美佳	(看護師)	北川 絵	(医事課)
	宇野 喜美子	(准看護師)	菊池 真	(企画運営課)
	猪股 三枝子	(看護師)	須藤 恵美子	(看護師)
	加藤 早苗	(看護師)	加藤 一恵	(看護師)

3. 委員会開催のまとめ

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 22 日	新年度の目標、新スタッフの自己紹介を実施した。
2	平成 27 年 5 月 20 日	エアマット使用方法に関するアンケートを各病棟へ依頼した。
3	平成 27 年 6 月 24 日	エアマットのアンケート結果を報告した。
4	平成 27 年 7 月 22 日	褥瘡コメディカル勉強会(11/10 開催)について話し合いを実施した。
5	平成 27 年 8 月 26 日	吊り下げフック破損の為発注していることを報告。
6	平成 27 年 9 月 24 日	エアマットの保管方法の確認をした。衣装ケースや袋に入れて保管すると湿気で故障の原因になるため段ボールでの保管が最適。
7	平成 27 年 10 月 28 日	エアマットの保管箱を交換した。(中央棟)
8	平成 27 年 11 月 25 日	背抜きグローブの購入を検討した。
9	平成 27 年 12 月 16 日	エアマットの保管箱を交換した(東棟)
10	平成 28 年 1 月 27 日	バイアテンシリコーン+を購入したことを報告。背抜きのサンプルを取り寄せ病棟で使用開始した。
11	平成 28 年 2 月 24 日	来年度の体位交換枕の契約数を見直すことを報告。
12	平成 28 年 3 月 23 日	反省点、来年度へ向けての目標について発表報告会を行った。

4. 活動要約

- ・ 定例委員会において、各病棟での褥瘡発生状況と治療経過について確認検討した。
 - ・ 定例委員会において、体位交換枕等の使用状況について確認した。
 - ・ 体位交換枕のリース開始となった。
- 1) リハスタッフ、栄養士、薬剤師がその専門性を生かし、予防や栄養補助食品、薬剤に関する情報を積極的に提供していく。
 - 2) 褥瘡に関する研修会への参加を促進する。
 - 3) 定例委員会で勉強会を開催する。
 - 4) 褥瘡に関する病棟スタッフ間での質問や話し合いが活発になるように、褥瘡対策委員が積極的に啓蒙活動を行う。

臨床検査適正化検討委員会

1. 活動目的

本委員会は、当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	萩井 譲士	(内科副部長)		
メンバー	保嶋 実	(院長)	清野 聡	(医局長)
	阿保 文子	(臨床検査技師長)	倉内 寿孝	(主任薬剤師)
	三國谷恵美子	(看護部長)	成田 京子	(看護師長)
	山田 まり子	(看護師長)	工藤 留美子	(看護師長)
	金崎 真紀子	(看護師長)	小笠原 美幸	(看護師長)
	小田桐 千代	(看護師長)	横山 純子	(看護師長)
	中田 智子	(看護師長)	今 基	(医事課長補佐)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 15 日	精度管理実施・参加報告、新検査項目の追加等の報告
2	平成 27 年 5 月 20 日	精度管理実施・参加報告、HISCL 不具合と対処報告
3	平成 27 年 6 月 17 日	i-STAT バージョンアップ実施、精度管理結果報告 青森県医師会主催 第 41 回（平成 26 年）臨床検査精度管理調査結果報告 異常なし
4	平成 27 年 7 月 15 日	精度管理実施報告、平成 26 年度青臨技精度管理指導講習会に参加 自動生化学分析装置定期点検実施、新検査項目の追加検討
5	平成 27 年 8 月 19 日	精度管理実施報告
6	平成 27 年 9 月 16 日	精度管理実施報告、委員会運営規定見直しの検討 凝固検査装置（ACLTOP300）にコントロール値が高めである不具合と対処報告
7	平成 27 年 10 月 21 日	精度管理参加結果報告 検査システムダウンあり、検査不能状態の患者対応報告
8	平成 27 年 11 月 18 日	精度管理参加申込、実施、結果報告 血液ガス分析装置(i-STAT)ソフトウェア更新 日本人高齢者を対象としたアピキサバンの有効性、安全性に関する検討、新電子カルテ稼働に伴う検査システムマスタの見直し実施
9	平成 27 年 12 月 16 日	平成 27 年度 第 42 回青森県医師会臨床検査制度管理参加の申込 尿中 FDP 検査オーダーの中止(オーダーなしのため)

10	平成 28 年 1 月 20 日	精度管理参加実施報告、自動生化学分析装置 (TBA-120FR) 定期点検実施報告、外注 (SRL) 項目のマスタ追加「検査項目：抗 GAD 抗体 (検査方法の変更に伴う基準値の変更のため)」
11	平成 28 年 2 月 17 日	精度管理参加申込 外注 (SRL) 検査項目のオーダーの見直し ・尿中ミオグロビン「2009 年 (平成 21 年) より年 1 回程度のオーダーの為」 ・アルミニウム「2005 年 (平成 17 年) よりオーダーなしの為」 多項目自動血球分析装置 XN-1000 定期点検実施 検体検査システム定期点検実施 (ライジンシャ)
12	平成 28 年 3 月 16 日	精度管理実施、調査報告 外注検査の定期的な見直しを実施

4. 活動要約

- ・検査データの精度の向上に努める
- ・最新の検査項目の提供
- ・検査機器の保守
- ・研究活動 (抗凝固薬の検討 1 事例)
- ・外注検査の定期的な見直し

薬事審議委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医薬品の採用及び削除に関して審議し、医薬品適正使用を目的に活動するものである。

2. 構成員

委員長	清野 聡（医局長 兼 薬剤室長・医薬品情報室長）
委員	岩田 学（副院長）
	内沢 隆充（脳神経外科部長）
	目時 典文（内科副部長）
	鳥谷部 翔（薬剤師長）【事務局】
	藤田 尚子（医薬品情報室副室長）
	工藤 雅令（事務部長）
	工藤 博人（企画運営課長）
	今 基（医事課長補佐）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 13 日	平成 27 年度委員任命 タケキャブ錠 20m g の検討 バルトレックス錠 500m g 後発品の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (ビーフリード 500・エルネオパ 1500・エリキュース錠 2.5)
2	平成 27 年 5 月 11 日	グリメピリド錠の 0.5m g 規格の検討 経管可能タンニン酸アルブミン製剤への変更検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (エリキュース錠 2.5)
3	平成 27 年 6 月 8 日	医薬品採用申請書の検討について エスロン注 200 と 500 の他規格変更検討 イミグランキット皮下注 3m g の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (エリキュース錠 2.5)
4	平成 27 年 7 月 13 日	医薬品採用申請書の検討について プラビックス錠の後発品検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (エリキュース錠 2.5)

5	平成 27 年 8 月 10 日	医薬品採用申請書の検討について プラビックス錠の後発品検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (エリキュース錠 2.5、バクトロバン軟膏)
6	平成 27 年 9 月 14 日	医薬品採用申請書の検討について プラビックス錠の後発品検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
7	平成 27 年 10 月 19 日	医薬品採用申請書の検討について プラビックス錠の後発品検討 ランタス注の後発品検討 スルペラゾン注、ペントシリン注の後発品検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (ビーソフテン外用スプレー)
8	平成 27 年 11 月 9 日	採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (エリキュース錠 2.5)
9	平成 27 年 12 月 14 日	院内製剤止痒水の製剤中止検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 日経 D I の 2015 年度後発品ランキング確認
10	平成 28 年 1 月 18 日	イーケプラ静注の本採用検討 化血研 B 型肝炎ワクチン採用継続可否の検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 医薬品・医薬部外品品質調査 (エリキュース錠 2.5)
11	平成 28 年 2 月 8 日	複数規格ある医薬品の採用基準の検討 ベルソムラ錠の本採用検討 アリセプト D 錠の後発品検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
12	平成 28 年 3 月 14 日	平成 28 年度診療報酬改定に伴う薬事に関するお知らせ 複数規格ある医薬品の採用基準の検討 フィニバックス注の中止とチエペネム注の本採用検討 ベタニス錠の本採用検討 各種配合剤 (アテディオ・レザルタス・エクメット) の採用検討 採用申請状況報告、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告

4. 活動要約

- ・ 事務局である薬剤室薬剤師が各製造販売会社ホームページ、MR訪問、添付文書やインタビューフォームなどから情報を入手、資料を作成し薬事審議委員会にて審議する。
- ・ 県内医療機関の採用状況及び流通を定期的に聴取し評価する。
- ・ 採用中の先発医薬品の中で①適応に違いがない、②形状や大きさが先発と似ている、③後発医薬品のみの特徴がある、など変更可能と考えられる医薬品を積極的に後発品に切り替える。新規採用の場合でも可能であれば後発医薬品とする。
- ・ 新規採用薬、採用変更及び中止薬を院内に回覧し周知する。
- ・ デッドストック情報を毎月共有し不良在庫にならないようにする。
- ・ 後発医薬品採用割合を、毎月チェックする。
- ・ 問題発生があれば速やかに薬事審議委員会に報告し採用継続の適否を検討する。

電子保存システム管理委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターに電子保存システム管理委員会を設け、診療録および電子保存システムの適正な管理、運用を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長 保嶋 実（院長）

メンバー 鎌田 孝篤（副院長）

白戸 弘志（内科医長）

成田 京子（看護師長）

工藤 留美子（看護師長）

小笠原 美幸（看護師長）

横山 純子（看護師長）

三浦 順子（リハビリテーション部技師長）

算用子 暁美（作業療法室長）

土岐 敏子（医療相談室長）

藤田 尚子（医薬品情報室副室長）

阿保 文子（臨床検査技師長）

小林 正志（事務局長）

工藤 博人（企画運営課長）

蒔苗 寿治（施設管理課長）

立林 修（庶務課長補佐・運用責任者）

盛 啓介（医療情報係主任・システム管理者）

岩田 学（副院長）

三國谷 恵美子（看護部長）

山田 まり子（看護師長）

金崎 真紀子（看護師長）

小田桐 千代（看護師長）

中田 智子（看護師長）

須藤 真史（理学療法室長）

松山 哲子（言語聴覚室長）

鳥谷部 翔（薬剤師長）

川村 隆行（診療放射線技師長）

鳴海 悦子（管理栄養士長）

工藤 雅令（事務部長）

奈良 富士子（庶務課長）

今 基（医事課長補佐）

佐々木 哲裕（医事係主任・診療録管理者）

3. 委員会開催記録

・電子保存システム管理委員会

毎月第2水曜日 16:00～（医療安全管理委員会終了後）

診療録・電子カルテシステム等の管理、運用等に関する事項の検討

各部署委員 31名

主な活動内容

回	日付	内容
1	平成27年4月8日	・4/1よりHSR（弘前脳卒中データベース研究）同意書取得の開始 ・経食道心臓超音波検査テンプレートの入力項目追加 ・リハ処方オーダーの機能障害に選択項目追加 ・4月からの診療体制変更に伴い外来診察予約枠の修正 ・第1回新電子カルテ導入検討委員会開催の報告
2	平成27年5月13日	・「下肢経皮的血管形成術の説明書および同意書」の追加適用 ・PPI処方時の警告メッセージのコメントマスタ修正 ・新電子カルテの機能確認の報告

3	平成 27 年 6 月 10 日	・ 医師サマリテンプレートの J C S 選択項目の追加 ・ 新規テンプレート「標準言語性対連合学習検査 (S-PA)」の運用開始 ・ 面談記録のテンプレート化について ・ 心エコーの予約枠変更 ・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
4	平成 27 年 7 月 8 日	・ 面談記録テンプレートの運用開始 ・ 評価スケール (F I M、H D S - R) のれチェック機能追加 ・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
5	平成 27 年 8 月 12 日	・ 外来栄養指導の運用開始 ・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
6	平成 27 年 9 月 9 日	・ 健診用検体検査オーダーマスタの修正 ・ 入院処方箋・注射箋のコメント表示についての障害報告 ・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
7	平成 27 年 10 月 14 日	・ 移動給食、食事オーダーのコメントマスタ追加 ・ ホルター心電図オーダーへの項目追加及び予約枠の追加 ・ 食物アレルギーに関するカルテ記載運用について ・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
8	平成 27 年 11 月 11 日	・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
9	平成 27 年 12 月 9 日	・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
10	平成 28 年 1 月 13 日	・ 新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告 新電子カルテ端末設置、事前入力、旧カルテからのデータ移行、新カルテ本稼働等に関するスケジュール及び作業内容について確認
11	平成 28 年 2 月 10 日	・ 新電子カルテ本稼働の状況報告と今後の検討事項等の確認
12	平成 28 年 3 月 9 日	・ 新電子カルテの運用状況報告 ・ 診療報酬改定への対応について

DPCコーディング委員会

1. 活動目的

本委員会は、標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保することを目的とする。

2. 構成

委員長	医療部	鎌田 孝篤（副院長）
メンバー	医療部	清野 聡（医局長）
		萩井 譲士（内科副部長）
		鳥谷部 翔（薬剤師長）
		三國谷 恵美子（看護部長）
看護部		成田 京子（看護師長）
		金崎 真紀子（看護師長）
		今 基（医事課長補佐）
事務部		齋藤 理恵（医事係長）
		佐々木 哲裕（医事係主任／診療記録管理者）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 27 日	・ 委員会規程について ・ 適切なコーディングのための方策について
2	平成 27 年 10 月 26 日	・ 適切なコーディングのための方策について ・ 個別指導・適時調査 事後報告と今後の対応について

4. 活動要約

- ・ サマリをはじめとした診療記録及びデータ提出における入力内容の確認。

倫理委員会

1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医学・医療の倫理的問題について協議するとともに、病院長又は医療部長の諮問を受けて、当院に所属する者が当院において行う医療行為、医学研究及び教育等が医の倫理に関するヘルシンキ宣言等の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるか審査する。

2. 構成員

委員長 松本 茂男（副院長）

メンバー 鎌田 孝篤（副院長）

清野 聡（医局長）

三國谷 恵美子（看護部長）

【病院外部の学識経験者】

弘前大学大学院保健学研究科看護学領域

教授 長内 智宏

青森県立保健大学健康科学部理学療法学科

准教授 勘林 秀行

元弘前大学医学部保健学科 教授

二唐 東朔

社会保険労務士 石塚 紀子

【事務局】

立林 修（庶務課長補佐）

神野 一條（庶務課）

3. 活動記録

A 審議あり

受付日	研究名	申請者
平成 27 年 5 月 7 日	脳卒中後遺症患者における QOL の継時的変化と規定要因の解析	弘前大学大学院保健学研究科 教授 長内 智宏
平成 27 年 5 月 18 日	回復期リハビリテーション病棟における退院計画・指導介入について ～病棟看護師の退院介入内容の調査～	看護師 齋藤 輝之
平成 27 年 7 月 9 日	塞栓源不明脳梗塞患者における 7 日間連続心電図記録器を用いた発作性心房細動検出の有用性に関する多施設共同観察研究	内科副部長 目時 典文
平成 27 年 9 月 1 日	日本人高齢者を対象としたアピキサバンの有効性・安全性に関する検討:医師主導型多施設共同前向きコホート研究	内科副部長 萩井 譲士
平成 27 年 9 月 7 日	脳卒中患者の外泊前後に対する介護者の心理的变化	看護師 能登谷 太地 他

平成 27 年 10 月 7 日	失語症患者の家族が看護師に求める自宅退院に向けてのかかわり	弘前大学大学院保健学研究科 准教授 藤田あけみ
平成 27 年 10 月 9 日	脳卒中患者家族における介護負担とストレス要因の関係について	看護師 成田 幸英
平成 27 年 10 月 23 日	脳卒中患者の呼吸機能病態に関連する要因についての調査	非常勤作業療法士 佐藤 ちひろ
平成 27 年 11 月 11 日	急性期脳梗塞患者における血中キサンチン酸化還元酵素（XOR）活性測定の臨床的意義の検討	内科副部長 萩井 譲士
平成 27 年 11 月 26 日	脳梗塞治療患者を対象としたスタチン治療の開始時期に関する比較研究	内科医長 白戸 弘志
平成 28 年 2 月 26 日	新規入職看護師の就労に関する研究	弘前大学大学院医学研究科神経精神科学講座 准教授 古郡 規雄

B 審議を必要としないもの（委員長決裁）

平成 27 年 4 月 30 日	脳卒中入院患者の早期における ADL 能力獲得の経過予測	理学療法士 三浦 康彦
平成 27 年 5 月 19 日	脳卒中入院患者の歩行自立度およびバランスに関する横断的研究	理学療法士 齊藤 成美
平成 27 年 10 月 6 日	ワルファリン療法中に発症した心原性脳塞栓症および脳出血例の発症時 PT-INR の検討：非ビタミン K 拮抗性経口抗凝固薬時代での検討	内科副部長 萩井 譲士
平成 27 年 10 月 22 日	感染防止対策加算連携施設間における DDD／DOT 比を用いた使用量評価についての検討	薬剤室主任 倉内 寿孝
平成 27 年 12 月 18 日	感染防止対策加算連携施設間における抗菌薬サーベイランスの評価と取り組みの効果	薬剤室主任 倉内 寿孝
平成 28 年 1 月 14 日	NOACs 処方例における嚥下障害の頻度と簡易懸濁法の有用性	薬剤師長 鳥谷部 翔
平成 28 年 1 月 22 日	脳卒中片麻痺患者における上肢の振りと歩行能力の関連性	理学療法士 薛 峻杰

4. 活動要約

- ・倫理審査は、紙上にて実施しており、各委員が審査の上、必要に応じて申請者へ質問、指摘を行う。また、不備な点については、修正、追加の上再申請をさせている。
- ・平成 27 年度 新規研究申請件数
審議あり：10 件、審議なし（委員長決裁）：7 件
※申請された研究はすべて承認

衛生委員会

1. 活動目的

衛生委員会の構成、運営、調査審議事項などを定め、衛生管理活動の円滑な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	保嶋 実	院長 (衛生管理者)
	人見 博康	内科部長 (産業医)
	清野 聡	医局長 (衛生管理者)
	松本 茂男	副院長
	小林 正志	事務局長
	三國谷 恵美子	看護部長
	成田 幸英	看護主任
	吉田 美奈	看護主任
	三浦 順子	リハビリテーション部技師長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	算用子 暁美	作業療法室長
	齋藤 理恵	医事係長
	立林 修	庶務課長補佐

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 22 日	感染罹患状況、春の健康診断、労災事故他について報告および検討をした。
2	平成 27 年 5 月 27 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（事務室、栄養室）他について報告および検討をした。 ストレスチェック制度の厚労省指針について確認した。
3	平成 27 年 6 月 24 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（5 病棟）他について報告および検討をした。 産業医よりストレスチェック制度の研修会参加報告があり、実施に向けた準備を進めることとした。
4	平成 27 年 7 月 29 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（1 病棟）他について報告および検討した。 春の健康診断結果の配布とフォローアップについて報告をした。
5	平成 27 年 8 月 26 日	感染罹患状況、労災事故、秋の健康診断、産業医の巡回（4 病棟、施設管理課別棟）他について報告および検討をした。 メンタルヘルス研修会の日程、講師について検討し、準備を進めることとした。

6	平成 27 年 9 月 30 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（3 病棟）他について報告および検討をした。 メンタルヘルスケア研修会開催：9 月 28 日、講師 古郡則雄先生 弘前労働基準監督署による個別指導（9 月 28 日）の報告を行った。
7	平成 27 年 10 月 28 日	感染罹患状況、労災事故、秋の健康診断、産業医の巡回（2 病棟）他について報告および検討をした。
8	平成 27 年 11 月 25 日	感染罹患状況、労災事故、秋の健康診断、産業医の巡回（リハ棟訓練室、歯科室）他について報告および検討をした。 秋の健康診断結果の配布とフォローアップについて報告をした。
9	平成 27 年 12 月 22 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（外来、超音波室等）他について報告および検討をした。
10	平成 28 年 1 月 27 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（検査室、放射線室）他について報告および検討をした。
11	平成 28 年 2 月 24 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（医局、薬剤室、物品管理室）他について報告および検討をした。
12	平成 28 年 3 月 30 日	感染罹患状況、労災事故、産業医の巡回（ボイラー室）について報告および検討をした。 ストレスチェックの実施時期、方法等について方針を確認した。

4. 活動要約

- ・事業者側と雇用者側からの委員構成で職場環境の点検と対策について検討した。
- ・感染罹患状況の把握と休養の指導をした。
- ・前年度に引き続き、冬の路面凍結による転倒事故防止対策として、職員通用口付近に融雪および電気マットを敷き、注意喚起の回覧、掲示を実施した。その結果、今年度も路面凍結による転倒事故の発生を防ぐことができた。
労災事故件数 針刺し 4 件、その他裂傷等けが 2 件
- ・産業医の巡回による職場環境の点検および指摘事項の検討をした。
- ・健康診断で所見のあった職員へのフォローアップをした。
春の受診者数 180 名、指示人数 44 名（24%）
秋の受診者数 396 名、指示人数 65 名（16%）
- ・メンタルヘルスケアについて年 1 回の研修会の実施
講演：「勤労者のメンタルヘルス」／開催：9 月 28 日～10 月 2 日
講師：弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 准教授 古郡規雄 先生、参加者 351 名
- ・ストレスチェックの実施について、次年度秋の健康診断時に実施をめどに準備を進めることとした。

部署代表者委員会

1. 活動目的

本委員会は、当財団が少しでも働きやすい環境となるよう、就業規則等の作成・変更にあたっての意見や要望を職員から聴取・集約した上で、財団との交渉や、財団が必要とする意見交換に応じ、法令で定められた書面による財団との協定の締結・変更及び解約を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	診療部代表	川村 隆行（診療放射線技師長）
メンバー	医局代表	佐々木 都子（内科副部長）
	看護部代表	佐藤 奈奈（看護主任）
	〃	大川 麻美（看護主任）
	リハビリテーション部代表	浅利 尚美（リハ主任）
	〃	佐藤 登康（作業療法士）
	事務部代表	佐々木 哲裕（医事係主任）

3. 委員会記録

	日付	内 容
1	平成 27 年 4 月 13 日	就業規則(給与規程)の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
2	平成 27 年 4 月 22 日	委員長が職員代表者として適任であるか各部署に確認するための書面を回覧した。
3	平成 27 年 5 月 11 日	4 月 13 日付での就業規則(給与規程)の一部改正事項を 5 月 8 日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受け、届出した旨を示す書面の写しを各部署へ回覧した。
4	平成 27 年 5 月 11 日	4 月 22 日付で回覧した書面を回収・確認した結果、過半数以上の職員から賛同を得られたことを各部署へ文書にて報告した。
5	平成 27 年 10 月 20 日	就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
6	平成 27 年 11 月 6 日	10 月 20 日付での就業規則等の一部改正事項を 10 月 30 日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受け、届出した旨を示す書面の写しを各部署へ回覧した。
7	平成 28 年 3 月 10 日	就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒職員各位の意見を聴取し、とりまとめ文書にて財団へ提出した。
8	平成 28 年 3 月 25 日	3 月 10 日付での就業規則等の一部改正に関して委員会から財団へ対し異議を申し立てた結果、財団から納得できる回答が得られたため、改正を行うこととした。
9	平成 28 年 3 月 28 日	平成 28 年度の時間外労働及び休日労働に関する協定書ならびに定期昇給・賞与支給率についての協定書を財団と締結した。

10	平成 28 年 3 月 31 日	3 月 10 日付での就業規則等の一部改正事項ならびに 3 月 28 日付で締結した協定書を 3 月 30 日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受ける。
----	------------------	--

4. 活動要約

平成 27 年度は十分な活動を行う事が出来ず、職員が感じているであろう働く環境への不満を改善するに至らなかった。

28 年度は職員が気持ち良く業務に従事出来る体制を整えるために、職員の意見や要望を取り入れて就業規則等の見直しを図って行くことを目標とする。

教育研修委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける職員の学習を奨励し、①職業人として自己を研鑽する姿勢を身につける、②医療人として患者のために奉仕する心を学ぶ、③プロフェッショナルとして個々の知識、スキルを高めるための支援、及び環境調整をするものである。

2. 構成員

委員長	岩田 学（副院長）	
副委員長	人見 博康（内科部長）	三浦 順子（リハビリテーション部技師長）
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿保 文子（臨床検査技師長）
	川村 隆行（診療放射線技師長）	鳴海 悦子（管理栄養士長）
	工藤 留美子（看護師長）	山田 まり子（看護師長）
	金崎 真紀子（看護師長）	中村 学人（理学療法士）
	増田 大起（作業療法士）	宇佐美 夏希（医療相談員）
	立林 修（庶務課課長）	桑田 武人（財務経理係長）
	濱中 麻里（医事課）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 24 日	出張旅費・学術助成費予算について 今年度メディカルスタッフ勉強会計画 今年度院外講習会・公開講座予定
2	平成 27 年 5 月 22 日	市民公開講座内容について リハビリテーションケア勉強会の内容報告
3	平成 27 年 6 月 26 日	出張旅費・学術助成費報告時期について リハビリテーションケア勉強会進捗状況報告
4	平成 27 年 7 月 24 日	リハビリテーションケア勉強会結果報告 資格取得・更新内規案検討
5	平成 27 年 8 月 28 日	資格取得・更新内規確認 資格取得者・更新リストについて
6	平成 27 年 9 月 25 日	職員表彰について リハビリテーションケア勉強会予定について
7	平成 27 年 10 月 30 日	職員表彰について リハビリテーションケア勉強会進捗状況について
8	平成 27 年 11 月 27 日	リハビリテーションケア勉強会報告
9	平成 27 年 12 月 25 日	リハビリテーションケア勉強会報告

10	平成 28 年 1 月 29 日	研修旅費・学術助成費について 戦略的人材育成費について、部署計画作成 学術奨励賞について 啓蒙活動と教育研修の分担について
11	平成 28 年 2 月 26 日	新年度研修旅費・学術助成費案について メディカルスタッフ勉強会について 戦略的人材育成費について 学術奨励賞について
12	平成 28 年 3 月 25 日	平成 27 年度助成費執行状況報告 戦略的人材育成費決定報告 メディカルスタッフ勉強会について 学術奨励賞受賞者について 糖尿病療養指導士活動に関するシステム作りについて

4. 活動要約

- ・ 出張旅費と学術助成の計画と執行状況の確認をした。
- ・ 戦略的人材育成の計画を立案した。
- ・ 院外研修会・公開講座の計画を施設行事として継続することとした。

施設運用委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)における施設運用についての意見及び要望について検討し、その適正化を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	岩田 学 (副院長)
メンバー	清野 聡 (医局長)
	三國谷 恵美子 (看護部長)
	中田 智子 (看護師長) ※平成 27 年 6 月まで
	横山 純子 (看護師長) ※平成 27 年 7 月から
	三浦 順子 (リハビリテーション部技師長)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	工藤 雅令 (事務部長)
	蒔苗 寿治 (施設管理課長)

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 8 日	・事務部の委員変更について ・エキスパンションジョイントについて ・部屋の点検表について ・ナースコールの改修工事について
2	平成 27 年 5 月 13 日	・エキスパンションジョイントについて ・部屋の点検表について審議検討した。 ・ナースコールの改修工事について
3	平成 27 年 6 月 3 日	・ナースコールの改修工事について ・部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 ・外来栄養指導開始について
4	平成 27 年 7 月 1 日	・部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 ・救急搬入口の虫対策について ・外来から売店のトイレ出入り口の衝突について
5	平成 27 年 8 月 5 日	・部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 ・救急搬入口の虫対策について ・外来から売店間のトイレ注意表示について ・新電子カルテ導入時の業者作業スペースについて
6	平成 27 年 9 月 2 日	・東棟から時間外出入り口への通路のミラーについて ・正面玄関マットのめくれについて ・脳ドック受診者専用の控室整備について
7	平成 27 年 10 月 7 日	・今年度 2 回目の点検表について ・2 病棟のリネン庫のしきりについて

8	平成 27 年 11 月 4 日	・ 部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 ・ 1、5 病棟の手洗い場の水はねについて ・ 院内の植物の管理について ・ 盗難事件後の仮眠室の巡回について ・ スタッフの顔写真の更新について
9	平成 27 年 12 月 2 日	・ 部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 ・ 1、5 病棟の手洗い場の水はねについて
10	平成 28 年 1 月 6 日	・ 部屋の点検後の改善・対策について審議検討した。 ・ 1、5 病棟の手洗い場の水はねについて ・ 院内の結露について
11	平成 28 年 2 月 3 日	・ 院内の結露について ・ 2 病棟面談室の借用について ・ 靴の汚れの院内持ち込みについて
12	平成 28 年 3 月 2 日	・ 2 病棟食堂設置の公衆電話について ・ 脳ドック控室について

4. 活動要約

- ・ 1、2、3 階の中央渡り廊下のエキスパンションジョイントの改修工事を行った。
- ・ 各部屋の責任者を選任し年 2 回の点検および改善・対策をした。
- ・ 2、3、4 病棟のナースコールの改修工事を行った。
- ・ 救急搬入口の虫対策と、1、5 病棟の手洗い場の水はね対策を行った。
- ・ 院内結露について清掃業者と職員に協力をお願いした。
- ・ 脳ドック受診者専用控室を設置した。

広報委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)の医療情報の広報を的確に推進するため、センターに広報委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2. 構成員

委員長 岩田 学（副院長）
 メンバー 目時 典文（内科副部長）
 三國谷 恵美子（看護部長）
 三浦 順子（リハビリテーション部技師長）
 鳥谷部 翔（薬剤師長）
 立林 修（庶務課長補佐）

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 27 日	・ ホームページの一部改修案について報告があった。 ・ 年報についての進捗状況報告があった。 ・ 今年度の市民公開講座は 9 月 27 日（日）開催予定。
2	平成 27 年 5 月 25 日	・ ホームページについて、改修に関する進捗状況報告があった。 ・ リクルート情報更新の準備をすすめる。 ・ 年報についての進捗状況報告があった。6 月中にホームページ上で公開する予定。
3	平成 27 年 6 月 22 日	・ 年報第 1 号（H23～H25 年度）が完成。ホームページに掲載するためのバナーを新規作成し、6 月末に公開予定とした。 ・ リクルート情報更新に向けた進捗状況報告があった。
4	平成 27 年 7 月 27 日	・ 年報第 1 号のホームページ掲載が完了した。年報第 2 号（H26 年度）の作成に着手し、年内完成予定とする。 ・ その他ホームページの修正進捗状況の報告があった。 ・ 市民公開講座について、ポスター作成などの進捗状況報告があった。 ・ 次回より隔月（奇数月）での委員会開催することとした。
5	平成 27 年 9 月 28 日	・ ホームページについて、各コンテンツの直近 1 年間の閲覧傾向を分析することとした。 ・ 次回委員会までに年報第 2 号の作成を完了する予定とした。 ・ 9 月 27 日市民公開講座開催。100 名の参加があり、次年度も開催する予定。
6	平成 27 年 11 月 30 日	・ ホームページについて、閲覧傾向の分析は現在作業中。レストランに関するページの内容を更新する。 ・ 年報第 2 号について、最終確認後、年内発行予定とする。 ・ 市民公開講座について、次年度も 9 月末開催の予定とする。

7	平成 28 年 1 月 25 日	・ホームページの閲覧傾向について分析報告があった。 ・年報第 2 号の完成とホームページ公開完了の報告があった。 ・市民公開講座の開催日、会場が決定。 ⇒ 平成 28 年 9 月 25 日（日）ヒロロ 4 F
8	平成 28 年 3 月 28 日	・ホームページのリクルート情報公開について、迅速に更新作業を進める。 ・年報第 3 号（H27 年度分）について、最低でも年内発行を目標に進めることとした。

4. 活動要約

- ・ホームページの充実、年報の作成、脳卒中市民公開講座の継続開催を軸に審議検討した。
- ・ホームページは、昨年度に引き続き、各コンテンツの定期的な更新を行った。
- ・弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第 1 号（H23～H25 年度）が完成し、ホームページにて公開。引き続き第 2 号（H26 年度）の作成に着手し、年内にホームページにて公開することができた。
- ・脳卒中市民公開講座 2015 を開催した

平成 27 年 9 月 27 日（日） 弘前市民文化交流館大ホール（ヒロロ 4 F）

参加者 100 名

患者サービス委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける各部門が連携協調を図り、業務の円滑な処理および効率性を確保することにより、病院を利用する患者および患者の家族等（以下患者等）へのサービス向上に資することを目的とする。

2. 構成員

委員長	中田 智子（看護師長）	
メンバー	鎌田 孝篤（副院長）	松本 茂男（副院長）
	横山 純子（看護師長）	小田桐千代（看護師長）
	工藤 正弘（看護主任）	千葉 順子（看護主任）
	成田 幸英（看護主任）	吉田 美奈（看護主任）
	佐藤 奈奈（看護主任）	齋藤 輝之（看護主任代行）
	小笠原由紀子（看護主任代行）	田中 裕美（看護師）
	石岡 明美（看護師）	阿部 理子（看護師）
	工藤 慎（医療相談室主任）	宮川 具子（言語聴覚士）
	藤田 由香（リハ士長）	佐藤 志穂（リハ主任）
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	関 晃治郎（放射線技師）
	柳沢 緑（医事課）	菊池あづさ（庶務課）

3. 活動要約

・患者サービス委員会：

毎月第2木曜日 15：30～16：00 メンバー 23名

・活動内容

職員の患者等への対応サービスの向上に関すること
 患者等の院内活動にかかるサービス向上に関すること
 患者等からの苦情・意見の収集および対応に関すること
 ボランティアの受け入れおよび活動内容に関すること
 その他の医療サービスに関すること

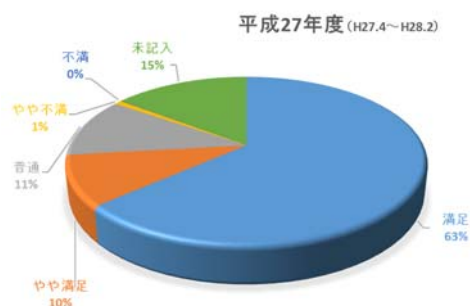
主なイベント

開催日	内容
平成27年7月21日	接遇研修「コミュニケーション能力を身につける」 ファイザー株式会社 地域医療推進部 接遇専任トレーナー 金子恵美氏
平成27年6月7日～7月9日	七夕飾り
平成27年9月25日	秋の清掃活動（ゴミ拾い） ※春の清掃活動は悪天候にて中止
平成27年12月	クリスマスハンドベル演奏（ボランティア） 1階エントランスホール

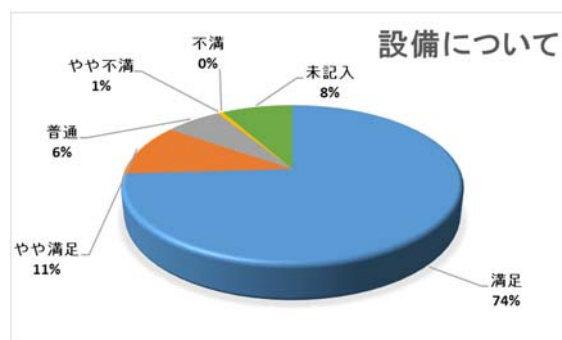
・退院時患者アンケート・意見箱から

退院患者アンケート回収率：36.5%

【スタッフ対応】



【設備について】



- ◆平成 26 年度患者アンケートご意見をもとに給食食器を変更
- ◆トイレ内床のペーパーが散乱していること等環境面でのご意見をたびたび頂き、業者並びに部署でも対応するよう周知
- ◆個人情報管理として外来待合室内の椅子設置場所変更
- ◆公衆電話設置場所減

・平成 27 年度まとめ

今年度、患者サービス委員会では、責任をもって活動するという意識持つためにも各委員の役割を決めた。活動するに当たり手順を作成し、委員変更時でも対応可能とした。清掃活動は春・秋に計画したが、天候や感染症流行を考慮し今年度は 1 回のみであった。時間外ボランティアであったが、職員 42 名の参加でクリーン活動を短時間で行うことができた。

退院時のアンケートでは私語、言葉使い、患者・家族を思いやるといった接遇に関する意見があり、「コミュニケーション能力を身につける」と題し、接遇選任トレーナーより参加型研修を実施。否定から入らず、「違い」を認識することから始め、枠にとらわれず、違った考え方や習慣、ものの見方などを柔軟に受け入れ理解しようとする姿勢が大切である。接遇は、人間関係を構築する上で核となるものであり今後も継続して研修実施する。

委員会では、アンケートおよび BOX に入れられた意見を中心に対応しているが、その他サービス向上に向け、直接患者からの声などを取り上げ、委員会で検討していく。

NST(Nutrition Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける、入院患者の栄養の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員

リーダー	佐々木都子（内科副部長）				
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿部 早苗（薬剤師）	山内めぐみ（臨床検査技師）		
	今井 真子（専任看護師）	佐藤 志乃（看護主任）	齋藤 真貴（看護師）		
	高阪 理恵（専任看護師）	横濱 岳（看護主任）	菊池 美里（看護師）		
	原子美喜子（看護師）	佐藤 綾（看護師）	寺地 恵子（看護師）		
	佐藤 聖美（看護師）	石岡 明美（看護師）	村上 直美（看護師）		
	工藤沙弥香（看護師）	小田桐千代（看護師長）	池上友紀子（言語聴覚士）		
	佐藤 勇季（理学療法士）	斎藤 信一（リハ主任）	佐々木哲裕（医事係主任）		
	成田 笑美（医療相談員）	藤田 佳子（主任管理栄養士）	鳴海 悦子（管理栄養士長）		
	田澤 亜巳（管理栄養士）	三浦みこと（管理栄養士）			

3. 活動記録

1 病棟	毎週月曜日	13:00～
2 病棟	毎週金曜日	13:00～
3 病棟	月 1 回第 2 木曜日	16:00～
4 病棟	月 1 回第 2 木曜日	16:00～
5 病棟	月 1 回第 4 木曜日	16:00～

▼NST評価件数

	1 病棟	2 病棟	3 病棟	4 病棟	5 病棟
4 月	27	22	7	5	9
5 月	15	33	9	5	8
6 月	26	21	8	5	9
7 月	15	29	10	6	10
8 月	16	22	12	8	7
9 月	14	25	10	3	10
10 月	14	32	10	4	11
11 月	19	15	5	5	8
12 月	11	28	9	4	4
1 月	11	28	10	4	7
2 月	15	13	8	1	4
3 月	9	23	8	3	7
合計	192 件	291 件	106 件	53 件	94 件

4. 活動要約

- ・NSTによる加算算定は実施していないが、食事不振、栄養不良者、経鼻経管栄養対象者に関する評価は継続して実施した。
- ・一般病棟でのNST対象者については、回復期病棟への転棟後も評価しているが、一般病棟では問題なかったが、回復期病棟転棟後に食欲不振になった患者の抽出なども継続して行われた。
- ・今年度はNST勉強会が以前に比べ多く行われた。

NST勉強会

「REF-P1の新たな機能」（10月7日）

「食物繊維と整腸剤併用により有用性について」（11月18日）

NST・褥瘡委員会合同勉強会

「コラーゲンと褥瘡」（6月24日）

「最新の褥瘡治療と適切な栄養の考え方」（3月9日）

ICT(Infection Control Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける感染管理を担当する専門職によるグループで、院内ラウンドなどの活動を通して院内感染防止を目的として活動するものである。

2. 構成員

リーダー	清野 聡 (医局長)	サブリーダー	萩井 譲士 (内科副部長)
メンバー	横山 純子 (看護師長)	中田 智子 (看護師長)	毛利 暢子 (看護主任)
	阿保 文子 (臨床検査技師長)	倉内 寿孝 (主任薬剤師)	藤田 佳子 (主任管理栄養士)
リンクスタッフ	小笠原美幸 (看護師長)	大川 麻美 (看護主任)	赤石富士子 (看護師)
	漆沢 修治 (看護師)	工藤 直美 (看護師)	出町真知子 (看護師)
	三上 夏美 (看護師)	松川 千尋 (看護師)	渡部 牧子 (看護師)
	棟方 直子 (看護師)	中田 詩子 (看護師)	板垣 充子 (看護師)
	須藤 圭吾 (看護師)	澁谷 知樹 (看護師)	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	久米田一喜 (薬剤師)	木村 俊太 (臨床検査技師)	長谷川国俊 (リハ士長)
	佐藤 登康 (作業療法士)	今 基 (医事課長補佐)	伊藤 佳織 (医事課主任)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 9 日	平成 26 年度 ICT 活動の振り返り 平成 27 年度 ICT 活動計画 院内巡視評価 (4 病棟・事務部・リハビリ室)
2	平成 27 年 5 月 14 日	安全器材の新規導入について ミニ勉強会 (各部署の改善点について) 手指消毒薬自動化導入 院内巡視評価 (診療放射線室・3 病棟・5 病棟・薬剤室・1 病棟)
3	平成 27 年 6 月 11 日	手指衛生について ①手指消毒の 5 つのタイミング ②病室前手指消毒薬ホルダー設置検討 ミニ勉強会 (感染の基礎テスト実施) 院内巡視評価 (1 病棟・2 病棟・4 病棟・3 病棟・臨床検査室)
4	平成 27 年 7 月 9 日	血液培養採取手順マニュアルの検討 (看護部業務委員会) 血液培養採取手順マニュアルの運用について 滅菌グローブ着脱手技確認実施 (全看護スタッフ対象) 咳エチケットポスター掲示開始 院内巡視評価 (4 病棟・5 病棟・外来)

5	平成 27 年 8 月 6 日	非滅菌グローブの検討・変更 手拭き用ペーパーの検討・検討 MER S 注意喚起ポスター検討・掲示開始 感染症に関する報告書の運用変更 第 1 回院内感染防止対策研修の指導について 院内巡視評価（1 病棟・2 病棟・3 病棟・リハビリ室）
6	平成 27 年 9 月 10 日	第 1 回院内感染防止対策研修の評価・振り返り 第 2 回院内感染防止対策研修の計画（案） 合同カンファレンス実施と結果フィードバック インフルエンザワクチンについて検討 院内巡視評価（5 病棟・4 病棟・1 病棟・外来）
7	平成 27 年 10 月 8 日	インフルエンザワクチン接種開始 第 2 回院内感染防止対策研修の計画 手指消毒薬の個人携帯開始 院内巡視評価（事務室・3 病棟・診療放射線室・2 病棟）
8	平成 27 年 11 月 12 日	手指消毒薬使用量確認開始（個人携帯・病室前） 肺炎球菌ワクチンについて サージカルマスクの検討・変更 院内巡視評価（薬剤室・5 病棟・臨床検査室・1 病棟）
9	平成 27 年 12 月 10 日	第 2 回院内感染防止対策研修実施 感染コレクションの配布開始 手指消毒薬使用量確認（個人携帯・病室前） 院内巡視評価（外来・3 病棟・4 病棟・2 病棟）
10	平成 28 年 1 月 14 日	院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯・病室前） 内巡視評価（5 病棟・1 病棟・外来・3 病棟・4 病棟）
11	平成 28 年 2 月 10 日	院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯・病室前） 院内巡視評価（2 病棟・1 病棟・3 病棟）
12	平成 28 年 3 月 10 日	院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯・病室前） 院内巡視評価【年間評価について検討】 年間活動の振り返り

4. 活動要約

- ・院内巡視（ICTラウンド）を実施・評価し感染対策委員会にて提言

1年を通して、評価項目に内部分の改善点なども多く抽出された。

ICTリンクスタッフのレベルが向上してきている。

- ・院内感染対策マニュアルの見直し

平成26年度に実施しているが、電子カルテ変更や運用変更などに伴い改訂必要箇所がある
各部門に協力を依頼し、今後も定期的な見直しと改訂を行っていく。

- ・新規採用器材

職業感染のリスクを減少させる目的で安全器材を導入

看護部業務委員会と共同でマニュアル作成・運用開始に伴う研修を開催

病棟での実施状況確認などを行うことで、職業感染予防ができている。

- ・手指消毒について

- ①手指消毒薬個人携帯開始に伴い、使用量確認も実施

個人・病棟における使用量の変化を可視化する事で感染予防につながっている。

- ②手指消毒薬の自動化導入

患者・家族が来院時に手指消毒を適切な手指消毒を実施できるように設置。

必要性を理解していただき、感染予防ができている。

脳ドックワーキンググループ

1. 活動目的

「脳ドック」を希望する対象者のニーズに応える。もって、根治の難しい神経疾患の発生を予防する。

2. 構成員

リーダー 内 沢 隆 充（脳神経外科部長）
メンバー 目 時 典 文（内科副部長） 萩 井 譲 士（内科副部長）
小田桐 千代（外来看護師長） 川 村 隆 行（診療放射線技師長）
阿 保 文 子（臨床検査技師長） 今 基 （医事課長補佐）
齋 藤 理 恵（医事課係長） 工 藤 博 人（企画運営課長）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 7 月 24 日	学会認定施設の取得に向けての検討
2	平成 27 年 10 月 2 日	一般検診者の内容と料金を見直し（H28.1～変更）
3	平成 28 年 1 月 1 日	一般検診者の内容と料金を改定 （心電図、頸部エコー検査の追加）

4. 活動要約

- ・脳卒中の早期発見と予防に貢献すべく、平成 27 年度も引き続き事業を継続
- ・今年度も公立学校共済組合と「脳検診」の委託契約を更新（定員 110 名）
- ・日本予防医学協会と「脳ドック」の委託契約を更新（自動更新）
- ・将来的に日本脳ドック学会認定施設の取得を目指す

・平成 27 年度の実績について

実施件数 : 125 件

未実施件数 : 31 件 （主な理由）

- ・体内金属有でのお断り（インプラント、ステント）
- ・希望日が合わずキャンセル
- ・申込はあったが（問診票もらった）不通 など

・その他

オリンパス黒石営業所より健康診断オプションとして「脳検診」の問い合わせあり。
詳細条件が合わず今回は見送りとなる（平成 27 年 11 月 13 日）

口腔ケアワーキンググループ

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける入院患者の口腔衛生の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員

リーダー	松山 哲子（言語聴覚室長）	サブリーダー	吉岡 百合子（作業療法士）
メンバー	佐藤 登康（作業療法士）	小堀文美子（歯科衛生士）	
	齋藤 美知佳（看護師）	佐々木 有沙（看護師）	稲葉 千尋（看護師）
	五十嵐 温美（看護師）	白戸 美千代（看護師）	伊藤 敏子（看護師）
	能登谷 太地（看護師）	大谷 輝美（看護師）	木村 ゆか子（准看護師）
	工藤 一子（准看護師）	五十嵐 緑（准看護師）	小坂 冬美（看護師）
	成田 雅子（看護師）	芳賀 沙織（准看護師）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 9 日	本年度活動計画の検討
2	平成 27 年 5 月 7 日	歯科医師による口腔ケア指導報告 歯磨き教室運用の問題点確認
3	平成 27 年 6 月 4 日	病棟ラウンド（東棟）
4	平成 27 年 7 月 2 日	病棟ラウンド（東棟）の結果評価
5	平成 27 年 8 月 6 日	病棟ラウンド（中央棟）
6	平成 27 年 9 月 3 日	病棟ラウンド（中央棟）の結果評価
7	平成 27 年 10 月 1 日	口腔ケアジェルの検討 摂食嚥下リハビリテーション学会の報告 歯科医師による指導、個別指導の運用状況報告
8	平成 27 年 11 月 5 日	歯磨き教室の運用状況評価
9	平成 27 年 12 月 3 日	歯磨き教室の運用修正
10	平成 28 年 1 月 7 日	口腔アセスメントシートの修正 ワーキンググループ定例会議の日時変更の検討 口腔ケア基本手技の勉強会 書籍「脳卒中の口腔ケア」
11	平成 28 年 2 月 4 日	メンバー変更確認 ワーキンググループ定例会議の日時変更
12	平成 28 年 3 月 17 日	次年度の活動検討 電子カルテ変更に伴う問題点確認

4. 活動要約

- ・ 口腔アセスメントの修正を行い、判定の精度向上につとめた。
- ・ 歯磨き指導の方法を細分化し、個別指導の充実を図った。
- ・ 院内をラウンドして評価を重ね、一定の成果が得られた。

編 集 後 記

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第3号（平成27年度）をお届けいたします。

第3号では、診療実績の部分で、経時的な推移がわかりやすいように平成27年度単年ではなく、過去3年分のデータも併せて掲載いたしました。

さて平成27年度は、9月に弘前脳卒中・リハビリテーションセンターの開設10周年記念式典が行われ、県内外から当センターにゆかりのある方々が80名ほど参加されました。また式典後の記念講演会では、弘前大学（現・済生会熊本病院）の奥村謙教授と東北大学の伊藤貞嘉教授にご講演いただきました。またセンター開設10周年を記念して26年度から始まった脳卒中市民公開講座も9月に開催され、100名を超える市民の皆様に参加していただきました。

開設から10年の区切を経て、新しい10年の歩みを始めた当センターですが、医療情勢の急激な変化や人口減少社会の到来で、安穩とはしてられない状況にあります。ただこうして1年の出来事を年報として記すことで、センターの確かな歩みを私達自身が確信し、次の10年に繋がるものと考えております。今後も引き続き定期発刊に努めていきたいと思っております。

最後に、年報第3号の発刊にご協力いただいた職員各位に感謝申し上げます。

広報委員長 岩田 学

【編 集】弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 広報委員会

委員長	岩 田 学（副院長）
委 員	目 時 典 文（内科副部長）
	三國谷 恵美子（看護部長）
	三 浦 順 子（リハビリテーション部技師長）
	鳥谷部 翔（薬剤師長）
	立 林 修（庶務課長補佐）

